

第5回
メディアに関する全国世論調査
(2012年)

公益財団法人 新聞通信調査会

目 次

《各メディアの印象・信頼度》

1. 各メディアの情報の信頼度は？…………… 1
 《1位「NHK テレビ」70.1点、2位「新聞」68.9点、3位「民放テレビ」60.3点。》
2. 各メディアの印象は？…………… 2
 《情報源として欠かせない「新聞」、信頼の「NHK テレビ」、面白い「民放テレビ」》

《原子力発電に関する報道》

3. 原子力発電に関する報道について各メディアの印象は？…………… 4
 《「自分の意見を持ったり、判断したりする時に、参考になった」は新聞が1位。》
4. 原子力発電に関する新聞の報道は？…………… 6
 《「政府や官公庁、電力会社が発表した情報をそのまま報道していた」が63%。》
5. 原子力発電に関するNHKテレビの報道は？…………… 8
 《「事実が正確に報道されていた」に67%の評価。》
6. 原子力発電に関する民放テレビの報道は？…………… 10
 《「難しい内容がわかりやすく解説されていた」に65%の評価。》
7. 原子力発電に関するインターネット情報は？…………… 12
 《「自分の意見を持ったり、判断したりする時に、参考になった」に36%の評価。》
8. 原子力発電に関する報道で、今後、新聞に望む報道内容は？…………… 14
 《「自然エネルギーについて」への要望が68%。》

《新聞への意見》

9. 新聞についてどう思う？…………… 16
 《情報の「多様性」「正確性」「責任感」に高い評価。》
10. 新聞の政治に対する態度についてどう思う？…………… 18
 《「不正を追及」「客観的な視点」に4割が肯定。
 「政治家についてすべて報道している」には変わらず厳しい評価。》
11. 新聞の政治的立場についてどう思う？…………… 20
 《欧米のように政治色を出すことに否定的なのは昨年度と変わらず。》
12. 新聞の記事の満足度は？…………… 21
 《ラ・テ欄、地元記事、社会記事など、身近な記事の満足度が高い。》
13. 新聞全般の満足度は？…………… 23
 《満足している人は59%、不満な人は7%。高年齢層で満足度が高い。》

《生活の中の新聞》

14. 新聞を読んでいる人は？…………… 24
 《「読んでいる」は朝刊 79%、夕刊 29%。朝夕刊共に閲読率は減少傾向。》
15. 新聞を読む時間は？…………… 26
 《平均時間は 27 分で昨年度と変わらず。若い世代ほど短い。》
16. 新聞を読む場所は？…………… 27
 《新聞を読むのは朝刊、夕刊共に自宅が中心。》
17. 新聞を読む理由は？…………… 28
 《新聞を読むことは生活の一部。
 1 位「習慣になっている」、2 位「好きなときに読める」》
18. よく読む新聞記事は？…………… 29
 《身近な記事が人気。1 位「社会記事」、2 位「地元記事」、3 位「ラ・テ欄」》
19. 新聞を読まない理由は？…………… 30
 《1 位は「テレビやインターネットなど他の情報で十分だから」(68%)、
 2 位「新聞を取っていない」(42%)。》
20. 戸別配達をどう思う？…………… 31
 《日本独特の戸別配達制度、「続けてほしい」80%。》
21. 夕刊の発行をどう思う？…………… 32
 《「続けてほしい」は 20%。前回より若干の減少。》
22. 月ぎめ新聞の購読状況は？…………… 33
 《82%が購読。全国紙は減少傾向、県紙・地方紙、ブロック紙は横ばい。》
23. 新聞の購読料をどう思う？…………… 35
 《「高い」とする人は 52%。若い世代で負担感が大きい。》
24. 通信社の役割を知っている？…………… 36
 《「役割を知っている」人の割合が全年代で増加。》
25. 見たり聞いたりしたことがある通信社は？…………… 37
 《1 位「共同通信社」(69%)、2 位「ロイター通信」(67%)で順位変わらず。》

《新聞のこれからとインターネット》

26. インターネットのニュースをどの程度見る？…………… 38
 《「インターネットニュースを毎日見る」30 代以下では半数近く。
 インターネットニュースの閲覧は、前回調査より全年代で増加。》
27. よく見るインターネットニュースの記事は？…………… 39
 《1 位「スポーツ・芸能に関する記事」(71%)、2 位「社会記事」(57%)》
28. インターネットニュースを見るサイトは？…………… 40
 《ポータルサイトが 85%、新聞社の公式サイトは 26%。》
29. 将来の新聞の役割についてどう思う？…………… 41
 《「新聞の役割が少なくなってくる」が若い世代では優勢。》
30. 電子新聞の利用意向は？…………… 42
 《「利用している」5%に増加、20 代の 10 人に 1 人が利用。》

(注) 本文の見出しに(＊)があるのは昨年度調査と同一質問であることを示している。

《各メディアの印象・信頼度》

1. 各メディアの情報の信頼度は？（＊）

－ 1位「NHKテレビ」70.1点、2位「新聞」68.9点、3位「民放テレビ」60.3点。－

- ・各メディアの情報をどの程度信頼しているかを、全面的に信頼している場合は100点、全く信頼していない場合は0点、普通の場合は50点として点数をつけてもらったところ、平均点が最も高かったのは「NHKテレビ」で70.1点、次いで「新聞」が68.9点、「民放テレビ」が60.3点となっている。
- ・性別、年代別に見ても、「NHKテレビ」、「新聞」がすべてのカテゴリーで上位2位を占めており、幅広く厚い信頼を得ていることが分かる。また、3位には「民放テレビ」があげられている。
- ・第1回調査（2008年12月、標本数3,000、以下、「2008年度調査」と言う）、第2回調査（2009年10月、標本数5,000、以下、「2009年度調査」と言う）、第3回調査（2010年9月、標本数5,000、以下、「2010年度調査」と言う）、第4回調査（2011年9月、標本数5,000、以下、「2011年度調査」と言う）でも、1位「NHKテレビ」（2008年度74.0点、2009年度73.5点、2010年度73.5点、2011年度74.3点）、2位「新聞」（同72.0点、同70.9点、同72.0点、同72.0点）、3位「民放テレビ」（同65.4点、同63.6点、同61.6点、同63.1点）で、順位に変化はなかったものの、昨年度から今年にかけてNHKテレビが4.2点、新聞が3.1点、民放テレビが3.5点の低下となった。

図1-1 各メディアの信頼度

(n=3,404)

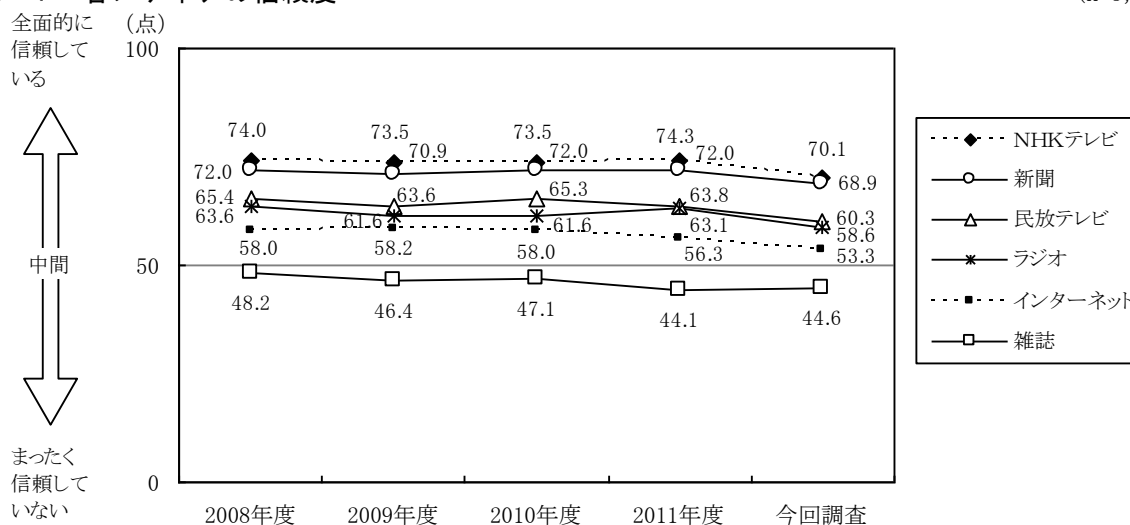


表1-1 各メディアの信頼度（性・年代別）

(n=3,404) (点)

	1 位	2 位	3 位	4 位	5 位	6 位
総 数	NHKテレビ 70.1	新聞 68.9	民放テレビ 60.3	ラジオ 58.6	インターネット 53.3	雑誌 44.6
男 性	NHKテレビ 70.0	新聞 68.0	民放テレビ 59.0	ラジオ 58.1	インターネット 52.9	雑誌 44.3
女 性	NHKテレビ 70.2	新聞 69.8	民放テレビ 61.5	ラジオ 59.1	インターネット 53.8	雑誌 44.8
18-19歳	NHKテレビ 73.9	新聞 69.0	民放テレビ 59.0	ラジオ 57.5	インターネット 50.0	雑誌 40.4
20 代	NHKテレビ 66.4	新聞 65.4	民放テレビ 57.4	ラジオ 54.6	インターネット 54.2	雑誌 44.9
30 代	NHKテレビ 65.5	新聞 65.2	民放テレビ 59.1	ラジオ 55.9	インターネット 54.6	雑誌 44.2
40 代	新聞 69.6	NHKテレビ 69.2	民放テレビ 60.8	ラジオ 59.0	インターネット 54.7	雑誌 43.8
50 代	NHKテレビ 69.4	新聞 69.2	民放テレビ 60.9	ラジオ 58.2	インターネット 52.8	雑誌 44.3
60 代	NHKテレビ 71.2	新聞 70.7	民放テレビ 61.9	ラジオ 61.5	インターネット 52.6	雑誌 44.9
70代以上	NHKテレビ 74.7	新聞 70.7	民放テレビ 60.4	ラジオ 60.2	インターネット 51.6	雑誌 46.1

2. 各メディアの印象は？（＊）

－ 情報源として欠かせない「新聞」、信頼の「NHK テレビ」、面白い「民放テレビ」 －

- ・各メディアの印象を聞いたところ、「情報源として欠かせない」メディアとして新聞をあげた人が 56.0%、「情報が役に立つ」メディアとして新聞をあげた人が 51.9%、「情報の量が多い」メディアとして新聞をあげた人が 39.9%とそれぞれ 1 位となっている。
- ・「社会的影響力がある」「情報が信頼できる」ではNHKテレビが、「情報が面白い・楽しい」「手軽に見聞きできる」「情報がわかりやすい」では民放テレビが 1 位となった。
- ・昨年度調査と比較すると、新聞、NHKテレビ、民放テレビは全項目で割合が下がっている。一方、インターネットは、全項目で昨年より割合が上昇し、「情報が面白い・楽しい」は 2 位となっている。
- ・年代別に見ると、「情報源として欠かせない」は、新聞では 60 代までは年代が上がるほど、インターネットでは 20 代以上で年代が下がるほどあげる人の割合が高くなり、20 代・30 代ではインターネットが 1 位であったが、40 代以上では新聞が逆転して 1 位になっている。「情報が信頼できる」は、NHKテレビでは 18～19 歳と 50 代以上で 6 割台、新聞では 50 代・60 代で約 6 割と他の年代より高くなっているが、民放テレビでは年代差はあまり見られず、インターネットは 20 代から年代が上がるにつれ減少してくる。「手軽に見聞きできる」は、新聞とNHKテレビでは年代が上がるほど多くあげられる傾向にあるが、民放テレビでは 60 代以下で年代差は小さく、インターネットは 20 代でピークになり、年代が上がるにつれ顕著に減少してくる。

表 2-1 各メディアの印象

(複数回答、n=3,404)

(%)

	1 位	2 位	3 位	4 位	5 位	6 位
情報源として欠かせない	新聞 56.0 (58.5)	NHKテレビ 49.9 (58.3)	民放テレビ 42.7 (45.9)	インターネット 29.5 (27.7)	ラジオ 11.9 (13.8)	雑誌 5.2 (3.1)
情報が役に立つ	新聞 51.9 (56.3)	NHKテレビ 49.4 (56.1)	民放テレビ 40.2 (45.6)	インターネット 25.2 (23.5)	ラジオ 10.9 (13.6)	雑誌 6.6 (5.1)
情報の量が多い	新聞 39.9 (41.5)	民放テレビ 36.9 (43.1)	NHKテレビ 33.0 (40.1)	インターネット 29.9 (26.1)	雑誌 4.4 (3.4)	ラジオ 4.0 (5.5)
社会的影響力がある	NHKテレビ 60.2 (68.0)	新聞 57.4 (60.2)	民放テレビ 49.1 (53.5)	インターネット 28.1 (23.2)	ラジオ 8.3 (9.1)	雑誌 5.9 (6.0)
情報が信頼できる	NHKテレビ 58.3 (71.2)	新聞 56.1 (63.4)	民放テレビ 27.0 (34.7)	インターネット 13.5 (13.1)	ラジオ 11.4 (14.7)	雑誌 2.8 (2.4)
情報が面白い・楽しい	民放テレビ 60.8 (67.7)	インターネット 27.6 (24.2)	NHKテレビ 19.8 (21.6)	新聞 19.7 (21.3)	雑誌 14.2 (13.8)	ラジオ 9.8 (10.2)
手軽に見聞きできる	民放テレビ 54.2 (59.7)	新聞 48.1 (48.9)	NHKテレビ 40.4 (47.5)	インターネット 37.9 (34.1)	ラジオ 14.1 (16.5)	雑誌 7.1 (6.8)
情報がわかりやすい	民放テレビ 49.6 (54.1)	NHKテレビ 45.8 (59.5)	新聞 38.9 (42.9)	インターネット 18.2 (15.9)	ラジオ 7.9 (8.7)	雑誌 4.8 (3.2)

注：（ ）内は昨年度調査の数値

図 2-1 「情報源として欠かせない」とした人の割合（性・年代別）

（複数回答、n=3,404）

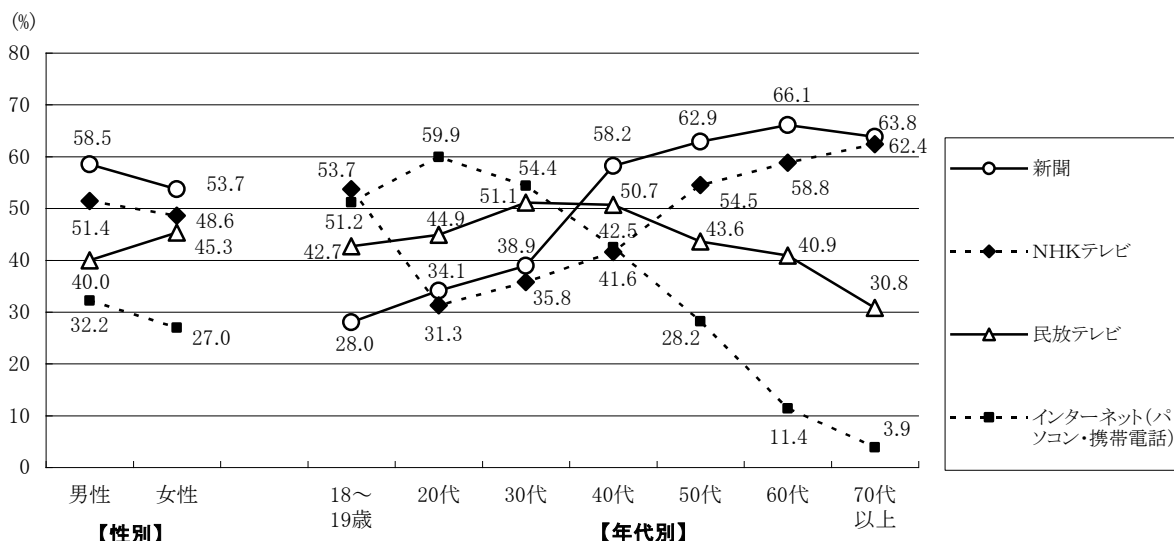


図 2-2 「情報が信頼できる」とした人の割合（性・年代別）

（複数回答、n=3,404）

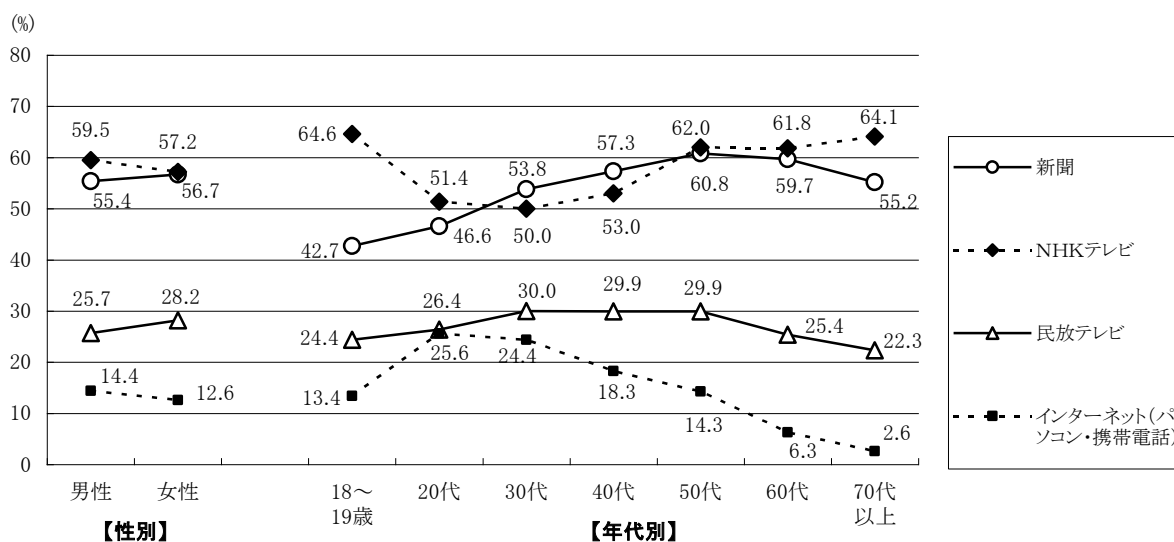
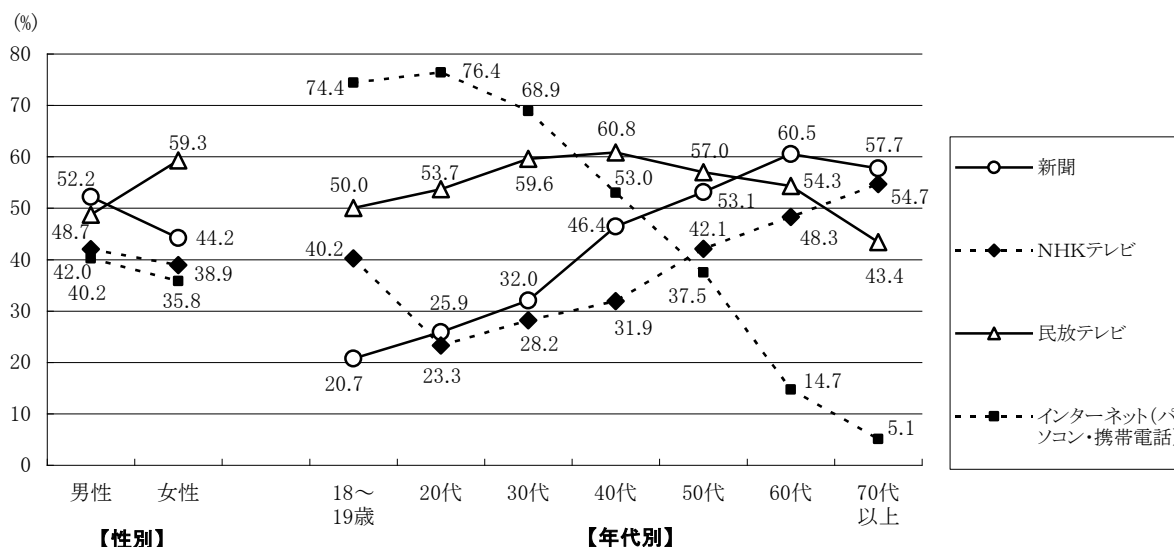


図 2-3 「手軽に見聞きできる」とした人の割合（性・年代別）

（複数回答、n=3,404）



原子力発電に関する報道

原子力発電に関する報道について各メディアの印象は？

「自分の意見を持ったり、判断したりする時に、参考になった」は新聞が1位。

- 原子力発電に関する報道について各メディアの印象を聞いたところ、「自分の意見を持ったり、判断したりする時に、参考になった」メディアとして新聞をあげた人が42.1%と1位となっているが、2位のNHKテレビ（41.9%）と3位の民放テレビ（41.4%）とは僅差である。
- 「公正・中立な報道がされていた」「他のメディアの情報より信頼していた」「事実が正確に報道されていた」ではNHKテレビが1位となったが、「政府や官公庁、電力会社が発表した情報をそのまま報道していた」も1位となっている。「いろいろな立場の専門家の意見を比較できた」「難しい内容がわかりやすく解説されていた」では民放テレビが1位となっている。
- 年代別に見ると、「自分の意見を持ったり、判断したりする時に、参考になった」は、新聞とNHKテレビでは20代以上では年代が上がるほど概ね高くなっているが、民放テレビでは40代で最も高くなり、年代が上がるほど割合が低くなっている。インターネットは20代・30代で民放テレビに次ぐ割合となっている。「公正・中立な報道がされていた」は、NHKテレビが20代から年代上がるほど多くなり、新聞では30代以下に比べ40代以上で高くなっているが、民放テレビでは年代差はあまり見られず、インターネットは30代をピークに年代が上がるにつれ減少してくる。「いろいろな立場の専門家の意見を比較できた」は、民放テレビでは60代以下で1位となっており、中でも30代・40代で6割を超えている。新聞とNHKテレビでは20代から年代が上がるほど多くあげられている。

図3-1 原子力発電に関する報道について各メディアの印象 (複数回答、n=3,404)

	1 位	2 位	3 位	4 位	5 位
自分の意見を持ったり、判断したりする時に、参考になった	新聞 42.1 (50.2)	NHKテレビ 41.9 (44.1)	民放テレビ 41.4 (40.3)	インターネット 18.0 (14.8)	雑誌 5.5 (5.5)
政府や官公庁、電力会社が発表した情報をそのまま報道していた	NHKテレビ 53.1 (54.3)	新聞 43.1 (49.4)	民放テレビ 34.4 (33.8)	インターネット 9.5 (7.8)	雑誌 2.8 (2.8)
公正・中立な報道がされていた	NHKテレビ 50.6 (52.5)	新聞 43.4 (50.3)	民放テレビ 23.6 (22.0)	インターネット 11.1 (8.8)	雑誌 2.5 (2.5)
他のメディアの情報より信頼していた	NHKテレビ 47.9 (49.6)	新聞 42.4 (49.5)	民放テレビ 20.4 (18.6)	インターネット 12.7 (10.0)	雑誌 2.5 (2.6)
事実が正確に報道されていた	NHKテレビ 46.5 (48.8)	新聞 43.9 (51.0)	民放テレビ 25.0 (24.2)	インターネット 14.5 (12.4)	雑誌 4.7 (4.6)
いろいろな立場の専門家の意見を比較できた	民放テレビ 52.0 (51.2)	NHKテレビ 38.0 (40.3)	新聞 25.0 (30.1)	インターネット 11.0 (9.5)	雑誌 5.0 (5.2)
難しい内容がわかりやすく解説されていた	民放テレビ 45.4 (43.7)	NHKテレビ 40.5 (43.1)	新聞 33.6 (39.9)	インターネット 12.4 (9.6)	雑誌 4.6 (4.7)

注：() 内は新聞読者の数値

図 3-1 「自分の意見を持ったり、判断したりする時に、参考になった」とした人の割合
(性・年代別) (複数回答、n=3,404)

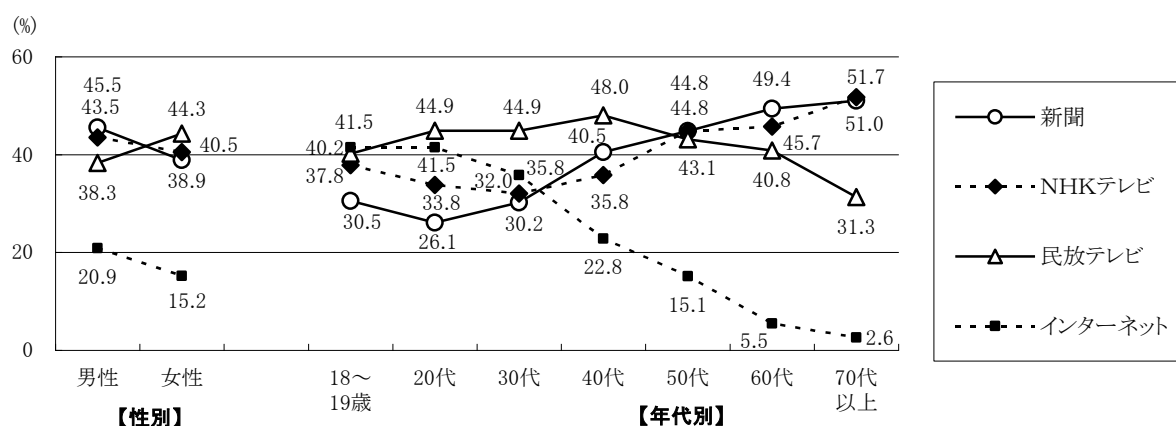


図 3-2 「公正・中立な報道がされていた」とした人の割合 (性・年代別) (複数回答、n=3,404)

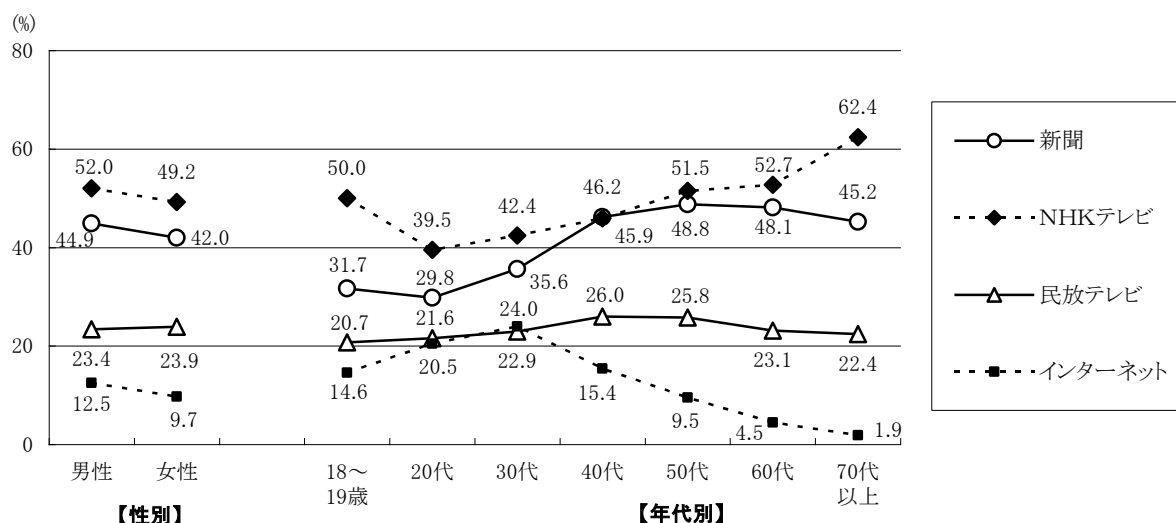
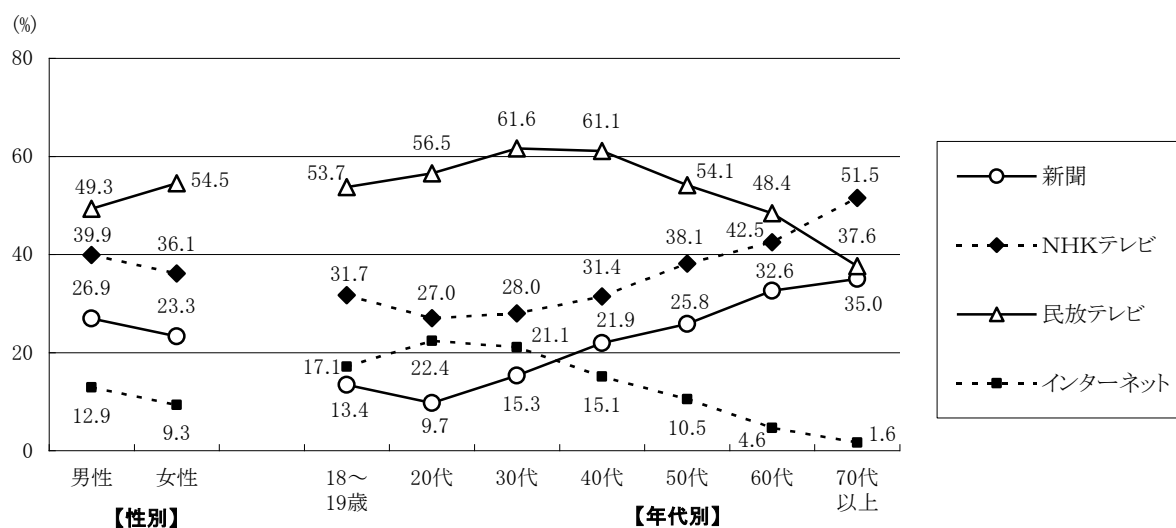


図 3-3 「いろいろな立場の専門家の意見を比較できた」とした人の割合
(性・年代別) (複数回答、n=3,404)



4. 原子力発電に関する新聞の報道は？

－ 「政府や官公庁、電力会社が発表した情報をそのまま報道していた」が63%。 －

- ・原子力発電に関して新聞が行った報道については、「まったくそう思う」「まあそう思う」を合わせた肯定層の割合は、「政府や官公庁、電力会社が発表した情報をそのまま報道していた」(63.1%)が最も多かった。以下、「自分の意見を持ったり、判断したりする時に、参考になった」(59.7%)、「他のメディアの情報より信頼していた」(57.5%)、「公正・中立な報道がされていた」(57.3%)、「事実が正確に報道されていた」(57.0%)、「難しい内容がわかりやすく解説されていた」(51.9%)の肯定層の割合は、5割台となっている。また、「いろいろな立場の専門家の意見を比較できた」(46.2%)の肯定層の割合は、否定層(47.6%)と拮抗している。
- ・原発再稼働の賛否別では、「他のメディアの情報より信頼していた」(再稼働賛成層 61.8%、再稼働反対層 56.2%)、「事実が正確に報道されていた」(再稼働賛成層 61.9%、再稼働反対層 53.9%)、「難しい内容がわかりやすく解説されていた」(再稼働賛成層 56.4%、再稼働反対層 51.8%)の肯定層の割合は、再稼働反対層に比べ、再稼働賛成層の方が高くなっている。

※肯定層：「まったくそう思う」＋「まあそう思う」

否定層：「あまりそう思わない」＋「まったくそう思わない」

図4-1 原子力発電に関する新聞報道について

(n=3,404)

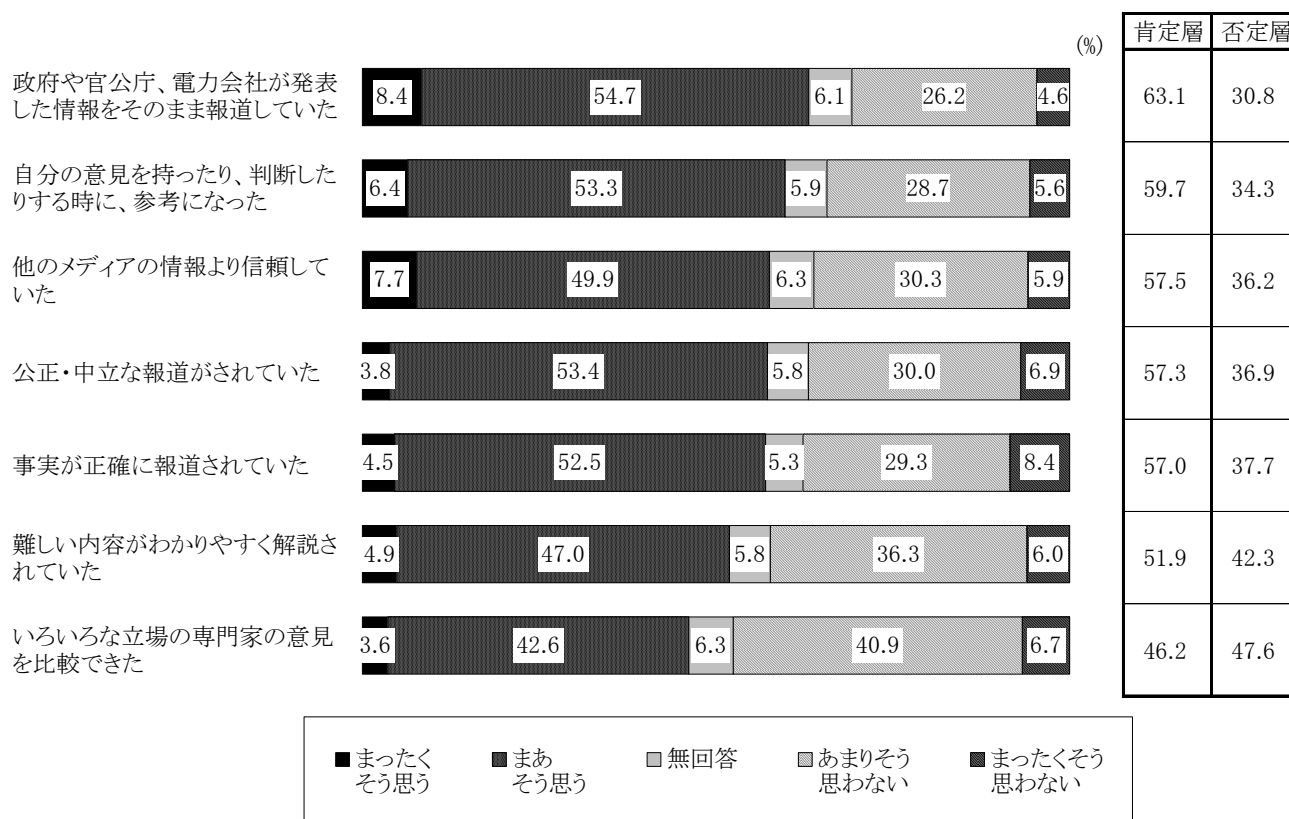
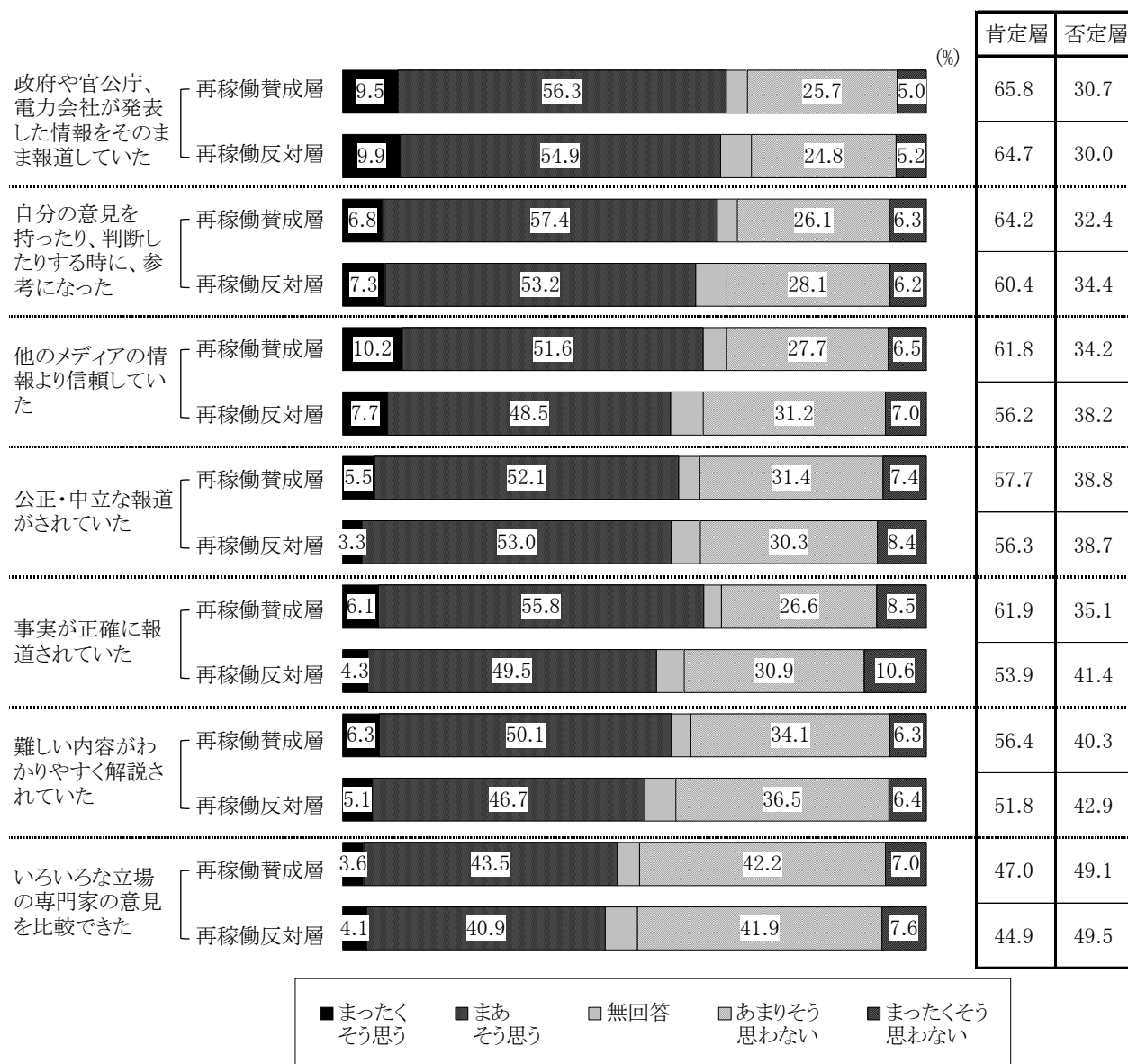


図4-2 原子力発電に関する新聞報道について（原発再稼働賛否別）

(n=3,404)



5. 原子力発電に関するNHKテレビの報道は？

— 「事実が正確に報道されていた」に67%の評価。 —

- 原子力発電に関してNHKテレビが行った報道については、「まったくそう思う」「まあそう思う」を合わせた肯定層の割合は、「事実が正確に報道されていた」(67.1%)が最も多かった。以下、「政府や官公庁、電力会社が発表した情報をそのまま報道していた」(66.1%)、「公正・中立な報道がされていた」(65.9%)、「他のメディアの情報より信頼していた」(63.5%)の肯定層の割合は6割台、「自分の意見を持ったり、判断したりする時に、参考になった」(59.5%)、「難しい内容がわかりやすく解説されていた」(57.9%)、「いろいろな立場の専門家の意見を比較できた」(50.6%)の肯定層の割合は5割台となっている。いずれの項目も、肯定層の割合が否定層を上回る。
- 原発再稼働の賛否別では、「事実が正確に報道されていた」(再稼働賛成層 72.0%、再稼働反対層 62.8%)、「公正・中立な報道がされていた」(再稼働賛成層 71.7%、再稼働反対層 61.1%)、「他のメディアの情報より信頼していた」(再稼働賛成層 66.6%、再稼働反対層 61.6%)、「難しい内容がわかりやすく解説されていた」(再稼働賛成層 62.8%、再稼働反対層 56.8%)、「いろいろな立場の専門家の意見を比較できた」(再稼働賛成層 53.0%、再稼働反対層 47.8%)の肯定層の割合は、再稼働反対層に比べ、再稼働賛成層の方が高くなっている。

※肯定層：「まったくそう思う」＋「まあそう思う」

否定層：「あまりそう思わない」＋「まったくそう思わない」

図5-1 原子力発電に関するNHKテレビ報道について

(n=3,404)

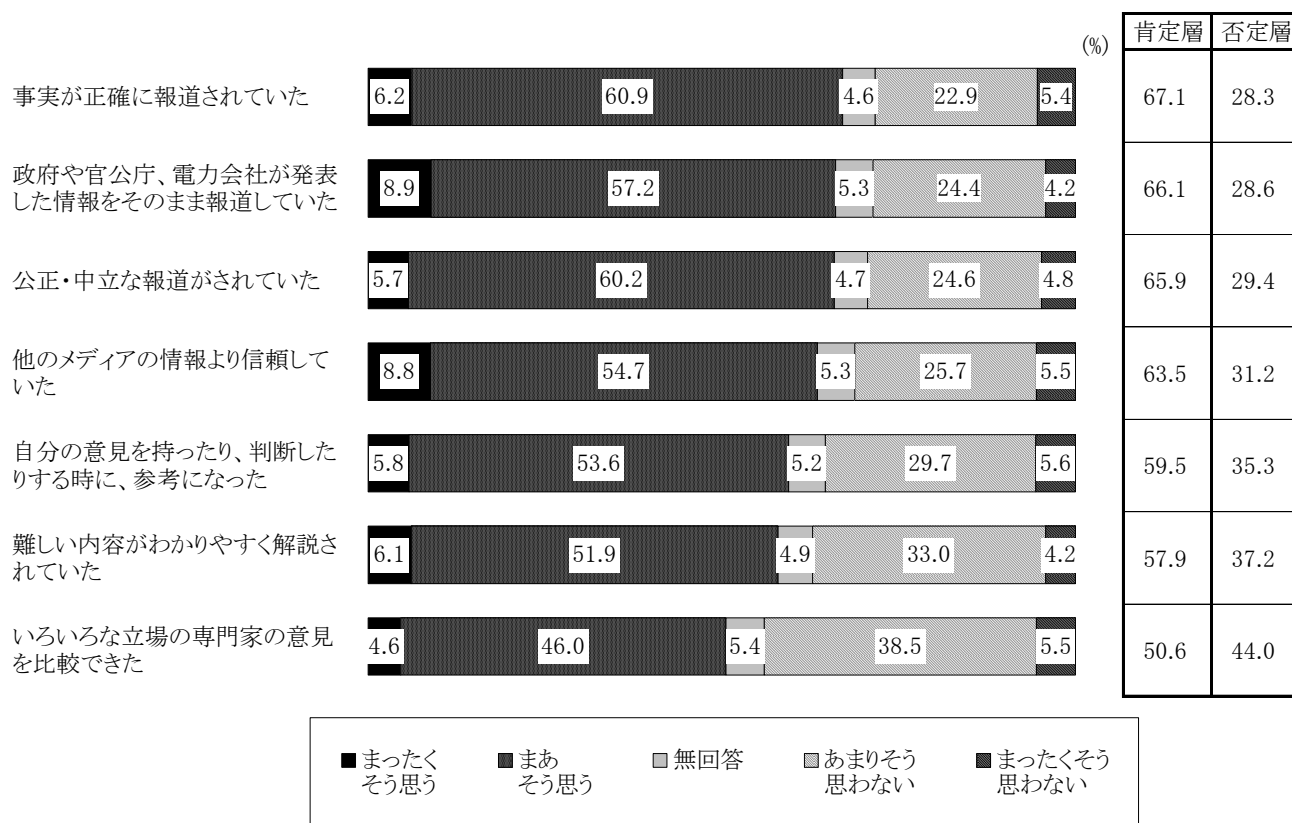
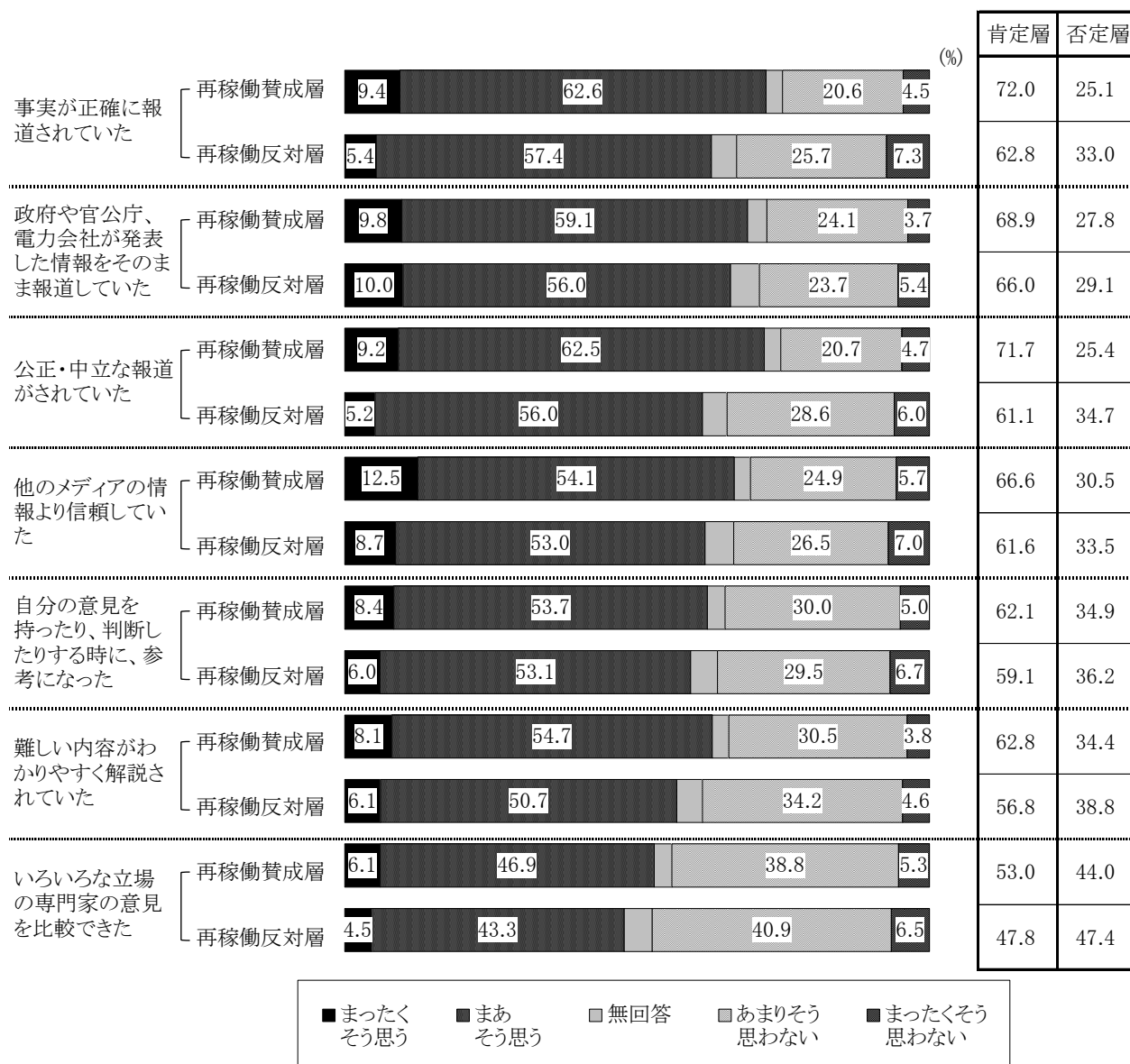


図5-2 原子力発電に関するNHKテレビ報道について（原発再稼働賛否別）

(n=3,404)



6. 原子力発電に関する民放テレビの報道は？

－ 「難しい内容がわかりやすく解説されていた」に 65%の評価。 －

- ・原子力発電に関して民放テレビが行った報道については、「まったくそう思う」「まあそう思う」を合わせた肯定層の割合は、「難しい内容がわかりやすく解説されていた」(64.5%) が最も多かった。以下、「いろいろな立場の専門家の意見を比較できた」(63.4%)、「自分の意見を持ったり、判断したりする時に、参考になった」(57.4%)、「事実が正確に報道されていた」(53.4%)、「政府や官公庁、電力会社が発表した情報をそのまま報道していた」(52.4%) の肯定層の割合は、5割台となっている。また、「公正・中立な報道がされていた」(44.7%)、「他のメディアの情報より信頼していた」(37.8%) については、肯定層の割合より、否定層の割合が 51.0%、57.8%と上回る。
- ・原発再稼働の賛否別では、「公正・中立な報道がされていた」(再稼働賛成層 39.8%、再稼働反対層 44.4%) の肯定層の割合は、再稼働賛成層に比べ、再稼働反対層の方が高くなっている。

※肯定層：「まったくそう思う」＋「まあそう思う」

否定層：「あまりそう思わない」＋「まったくそう思わない」

図 6-1 原子力発電に関する民放テレビ報道について

(n=3,404)

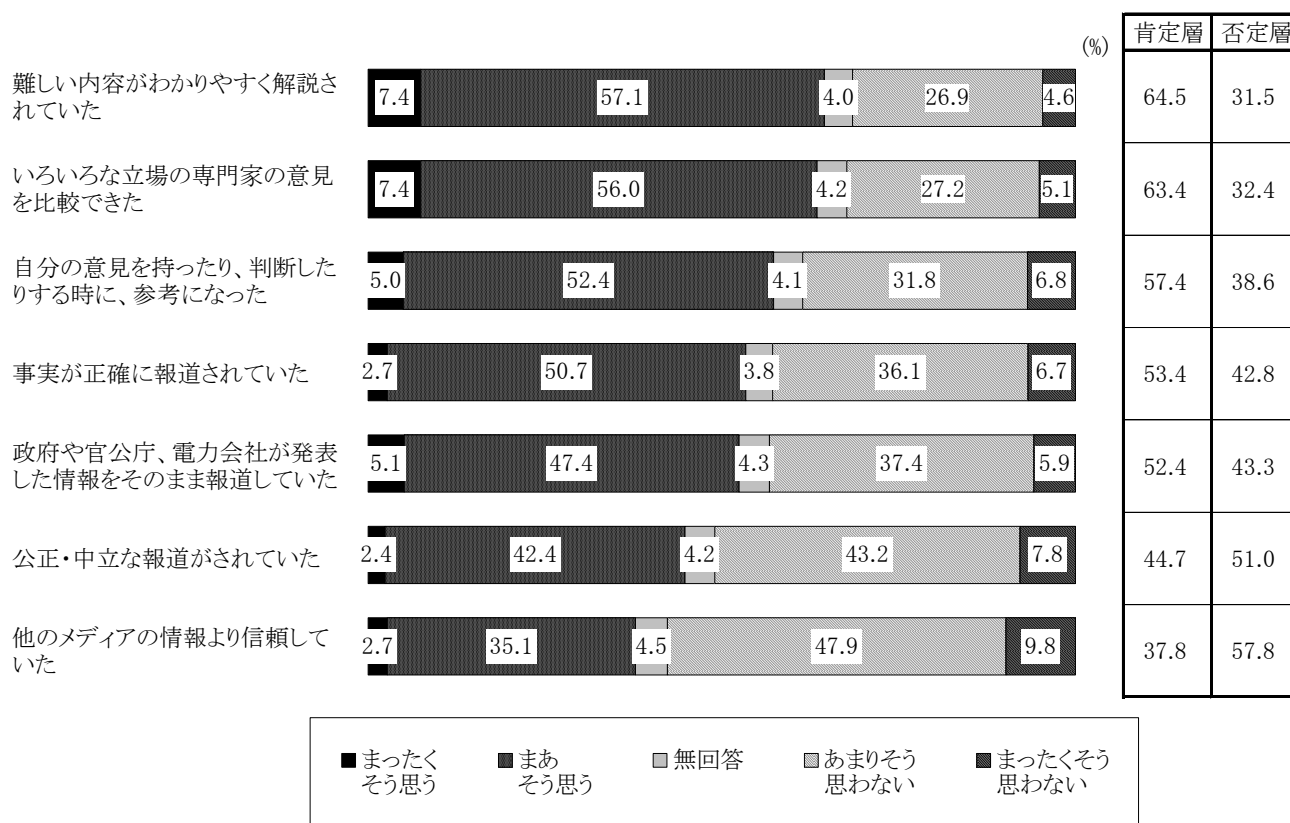
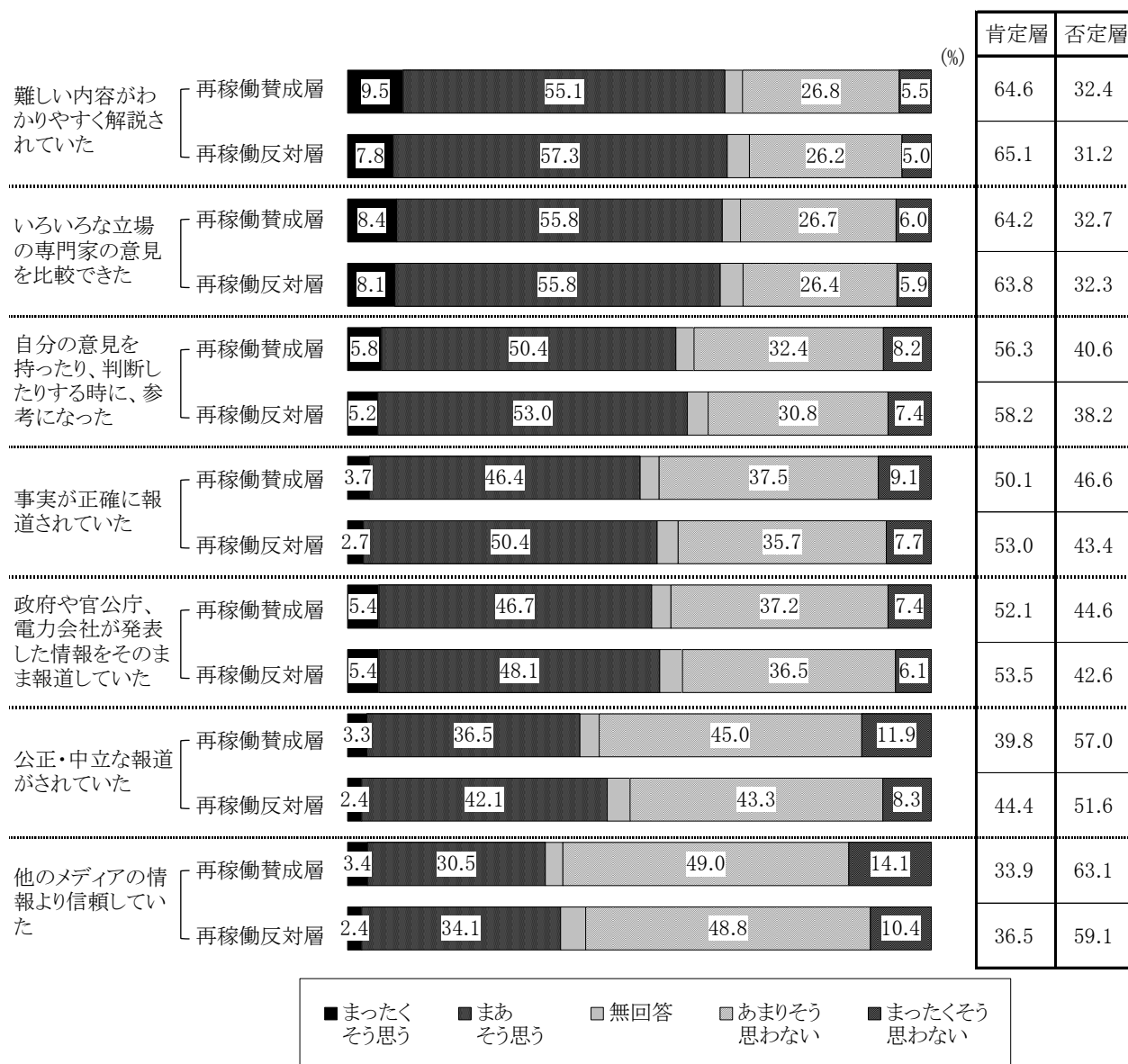


図6-2 原子力発電に関する民放テレビ報道について（原発再稼働賛否別）

(n=3,404)



7. 原子力発電に関するインターネット情報は？

— 「自分の意見を持ったり、判断したりする時に、参考になった」に 36%の評価。 —

- 原子力発電に関するインターネットの情報については、「まったくそう思う」「まあそう思う」を合わせた肯定層の割合は、「自分の意見を持ったり、判断したりする時に、参考になった」(35.9%) が最も多いが、否定層(36.3%)の割合と並んでいる。以下、「事実が正確に報道されていた」(33.8%)、「難しい内容がわかりやすく解説されていた」(33.7%)、「いろいろな立場の専門家の意見を比較できた」(31.8%)の肯定層の割合は3割台、「政府や官公庁、電力会社が発表した情報をそのまま報道していた」(28.5%)、「公正・中立な報道がされていた」(28.1%)、「他のメディアの情報より信頼していた」(26.3%)の肯定層の割合は2割台となり、いずれも否定層の方が上回っている。
- 原発再稼働の賛否別では、「事実が正確に報道されていた」(再稼働賛成層 38.4%、再稼働反対層 33.2%)、「難しい内容がわかりやすく解説されていた」(再稼働賛成層 37.8%、再稼働反対層 33.0%)の肯定層の割合は、再稼働反対層に比べ、再稼働賛成層の方が高くなっている。

※肯定層：「まったくそう思う」＋「まあそう思う」

否定層：「あまりそう思わない」＋「まったくそう思わない」

図7-1 原子力発電に関するインターネット情報について

(n=3,404)

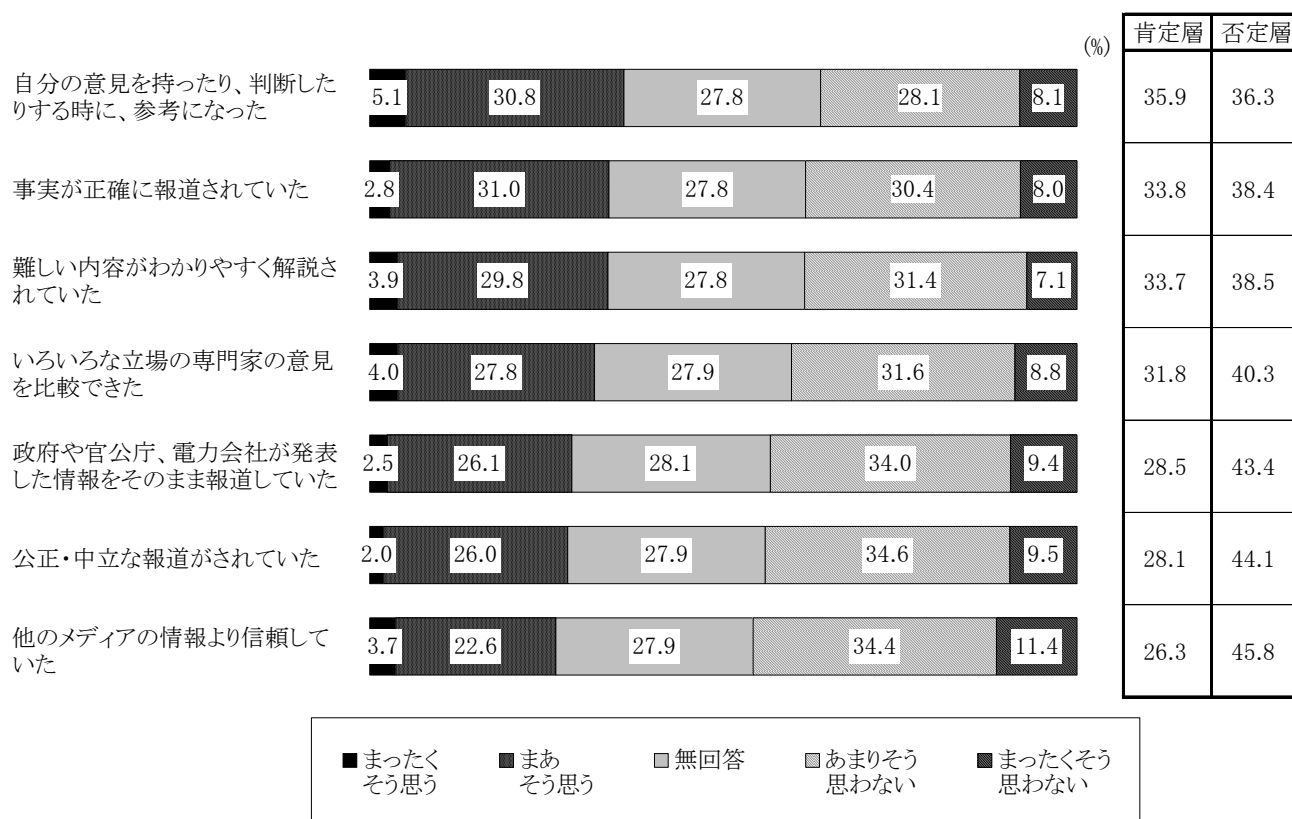
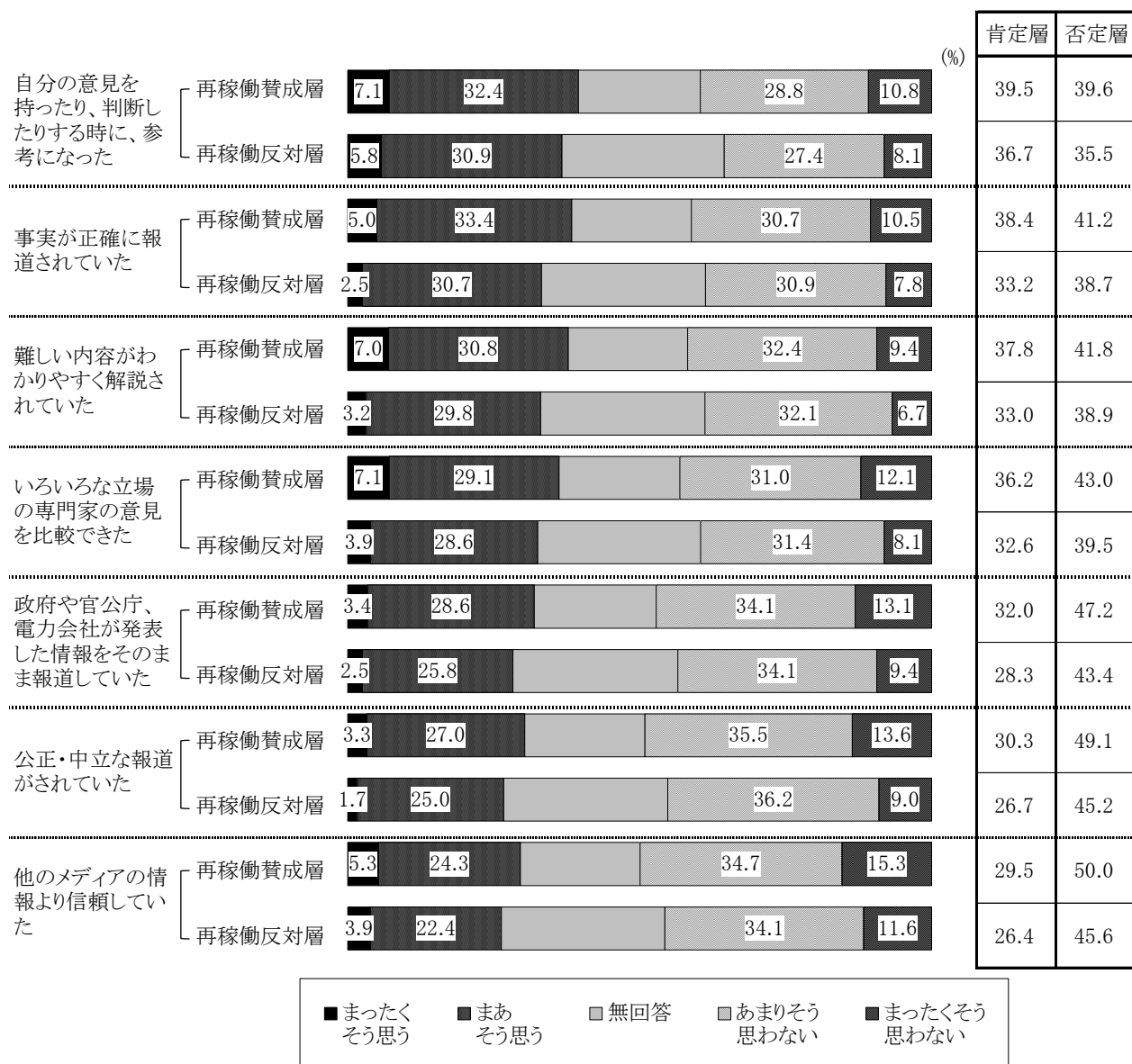


図 7-2 原子力発電に関するインターネット情報について（原発再稼働賛否別）

(n=3,404)



8. 原子力発電に関する報道で、今後、新聞に望む報道内容は？

－ 「自然エネルギーについて」への要望が68%。 －

- ・今後新聞に望む報道内容は、「自然エネルギー（太陽光・風力・水力・地熱など）について」が67.6%で最も多く、次いで、「放射能の拡散状況や健康への影響」（59.3%）、「福島第一原発事故の現状と今後」（56.1%）、「原発から出る核廃棄物の処理問題」（54.8%）の順で続いている。
- ・原子力発電を再稼働させるべきと考える再稼働賛成層と、再稼働させるべきではないと考える再稼働反対層では要望が大きく異なっている。「自然エネルギー（太陽光・風力・水力・地熱など）について」の報道への要望は、再稼働賛成層（59.1%）も、再稼働反対層（74.2%）も最も高いが、割合には15ポイントの差がある。再稼働賛成層では、以下、「原子力発電の再稼働について」（55.0%）、「日本の経済全般への影響」（50.9%）、「福島第一原発事故の現状と今後」（47.6%）、「放射能の拡散状況や健康への影響」（45.5%）、「原子力発電所の安全維持への政府の方針」（45.3%）となっている。再稼働反対層では、以下、「放射能の拡散状況や健康への影響」（66.9%）、「原発から出る核廃棄物の処理問題」（64.5%）、「福島第一原発事故の現状と今後」（64.4%）への要望が60%を超え、「発送電分離など電力会社の今後のあり方について」（44.2%）も再稼働賛成層より12ポイント多くなっている。

図8-1 原子力発電に関する報道で今後新聞に望む報道内容

（複数回答、n=3,404）

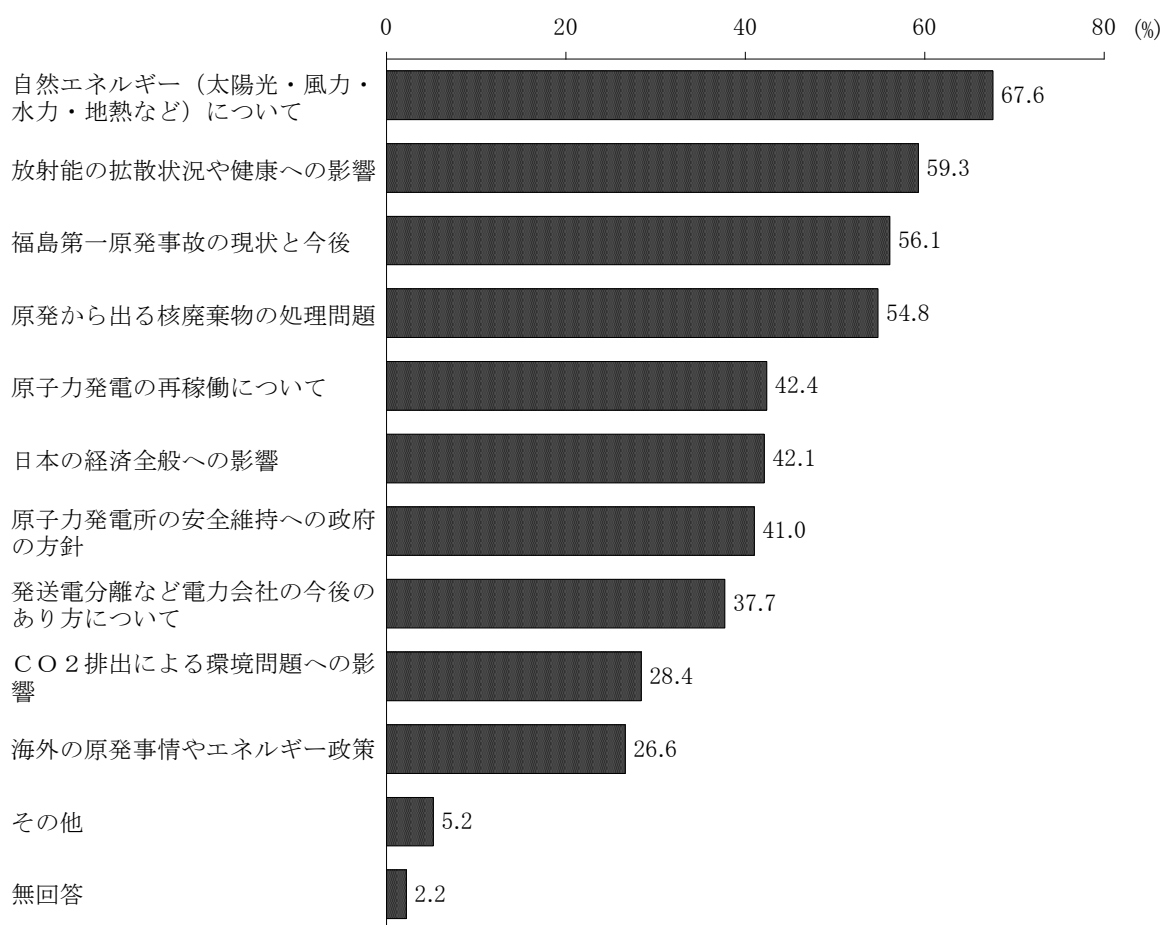
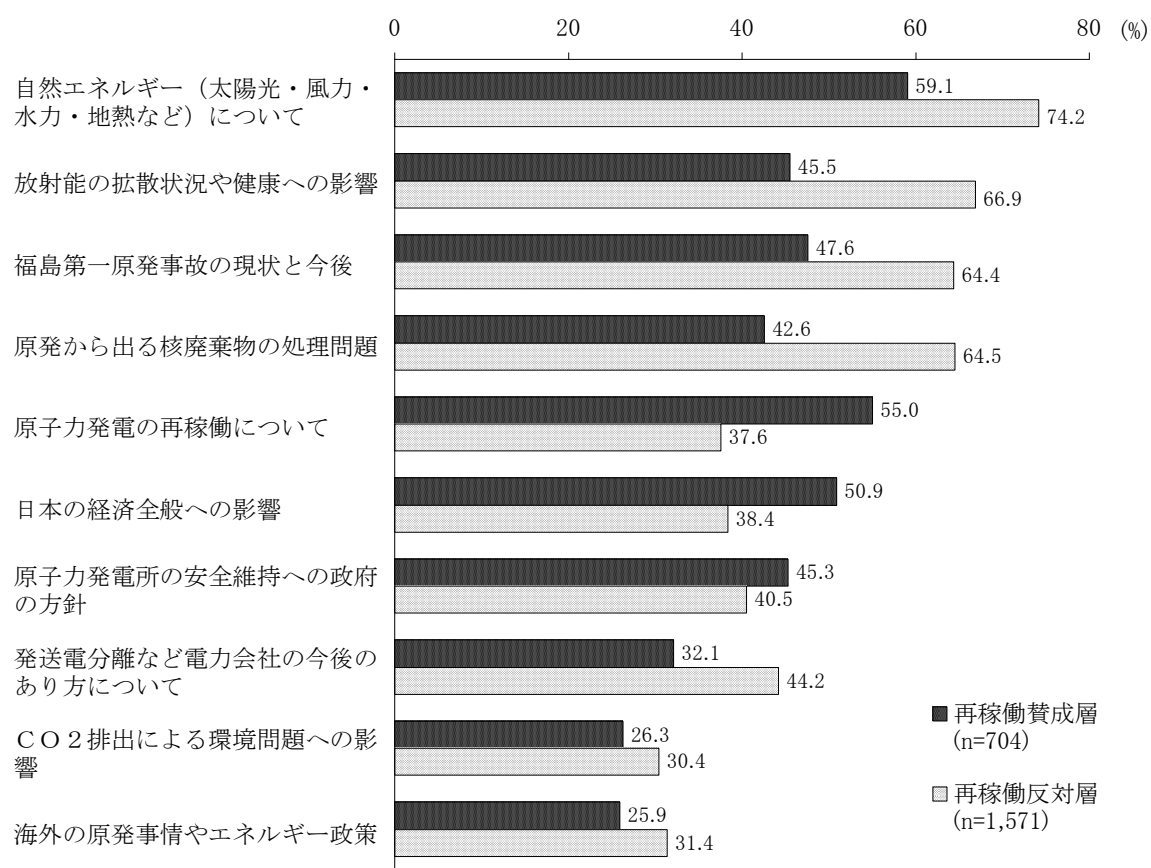


図 8-2 原子力発電に関する報道で今後新聞に望む報道内容（原発再稼働賛否別）



《新聞への意見》

9. 新聞についてどう思う? (*)

— 情報の「多様性」「正確性」「責任感」に高い評価。 —
「多種多様な情報を知ることができる」が72%

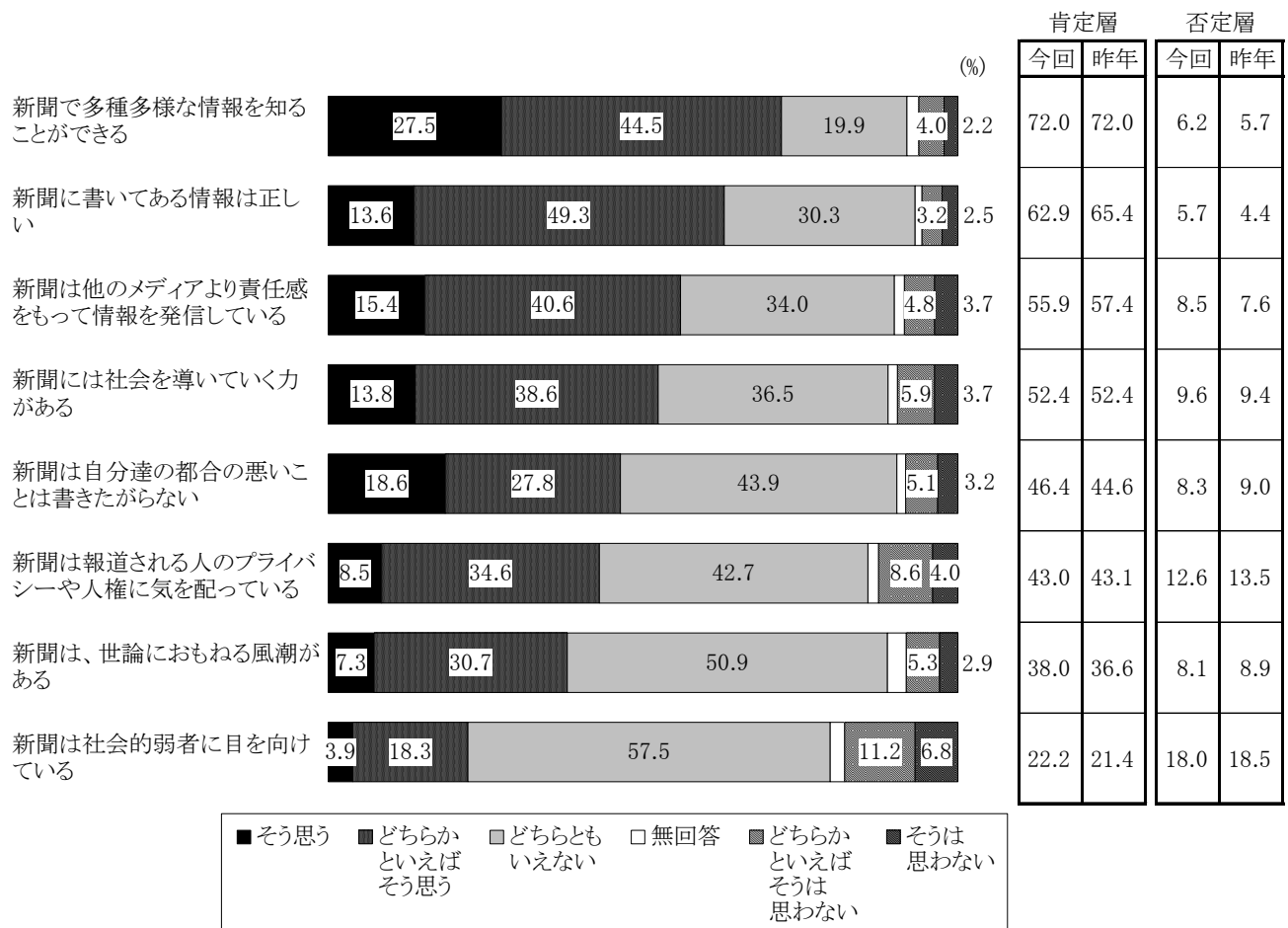
- ・新聞についての印象や意見について、肯定層の占める割合を比較すると、「新聞で多種多様な情報を知ることができる」(72.0%)が最も多く、次いで、「新聞に書いてある情報は正しい」(62.9%)、「新聞は他のメディアより責任感をもって情報を発信している」(55.9%)、「新聞には社会を導いていく力がある」(52.4%)の順に多くなっており、新聞が発信している情報に対しての評価は高い。
- ・他方、「新聞は報道される人のプライバシーや人権に気を配っている」と「新聞は社会的弱者に目を向けている」で、否定層がそれぞれ12.6%、18.0%となり、新聞の報道倫理に対しては比較的厳しい目が向けられている。
- ・昨年度調査と比較すると、最も増減の大きかったのは、「新聞に書いてある情報は正しい」の肯定層の2.5ポイント減であり、全体に変動はほとんど見られない。

※肯定層:「そう思う」+「どちらかといえばそう思う」

否定層:「どちらかといえばそうは思わない」+「そうは思わない」

図9-1 新聞についての印象や意見

(n=3,404)



- ・「新聞で多種多様な情報を知ることができる」の肯定層は、30代以下で6割台、40代以上で7割台となっている。幅広い情報を得られる媒体という点が、世代を問わず評価されていることが分かる。
- ・「新聞は他のメディアより責任感をもって情報発信している」の肯定層は、概ね年代が上がるほど増加する傾向が見られ、40代以上で6割前後となっている。
- ・「新聞は社会的弱者に目を向けている」の否定層は、30代以下で2割台となり、肯定層を上回っている。40代以上では肯定層が否定層を上回るが、肯定層の割合は、最も多い70代以上でも3割にとどまる。

図9-1 「新聞で多種多様な情報を知ることができる」(性・年代別) (n=3,404)

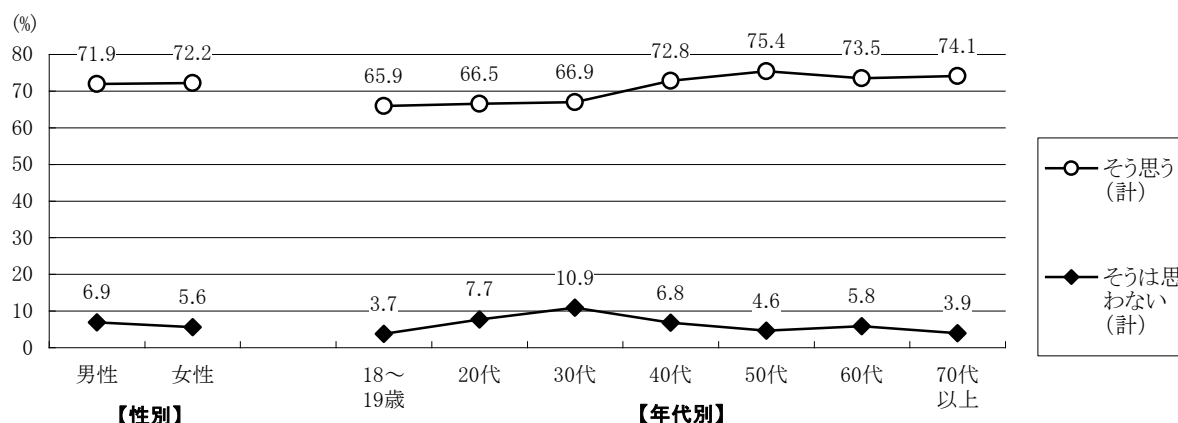


図9-2 「新聞は他のメディアより責任感をもって情報発信している」(性・年代別) (n=3,404)

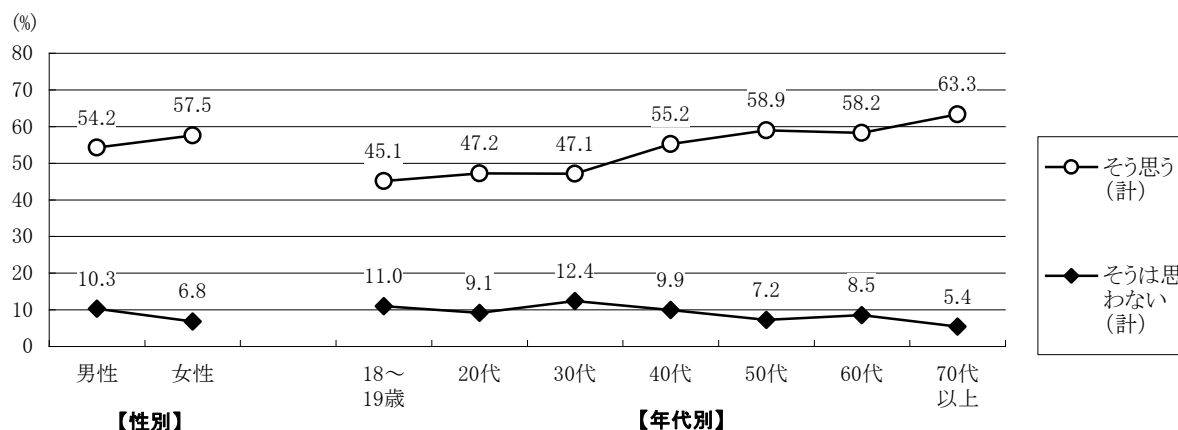
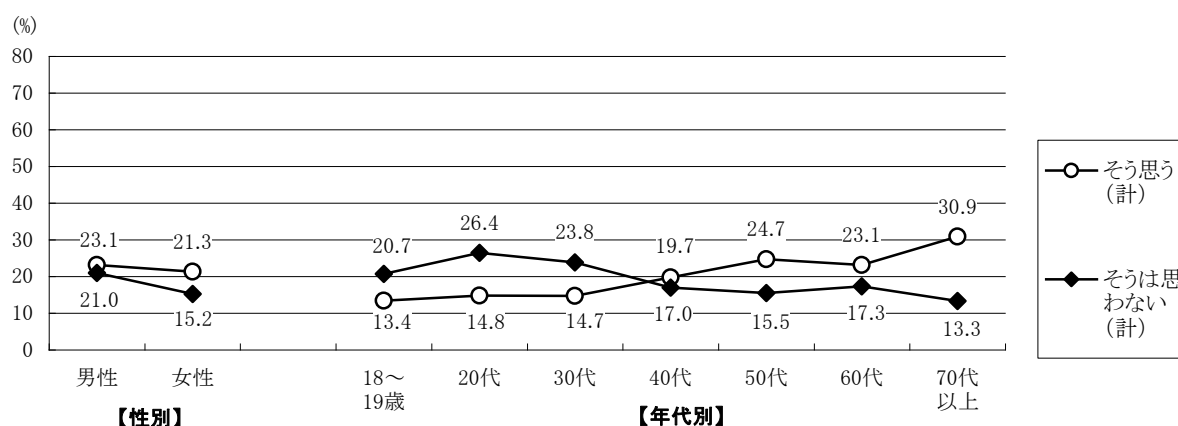


図9-3 「新聞は社会的弱者に目を向けている」(性・年代別) (n=3,404)



10. 新聞の政治に対する態度についてどう思う？（＊）

－ 「不正を追及」「客観的な視点」に4割が肯定。

「政治家についてすべて報道している」には変わらず厳しい評価。 －

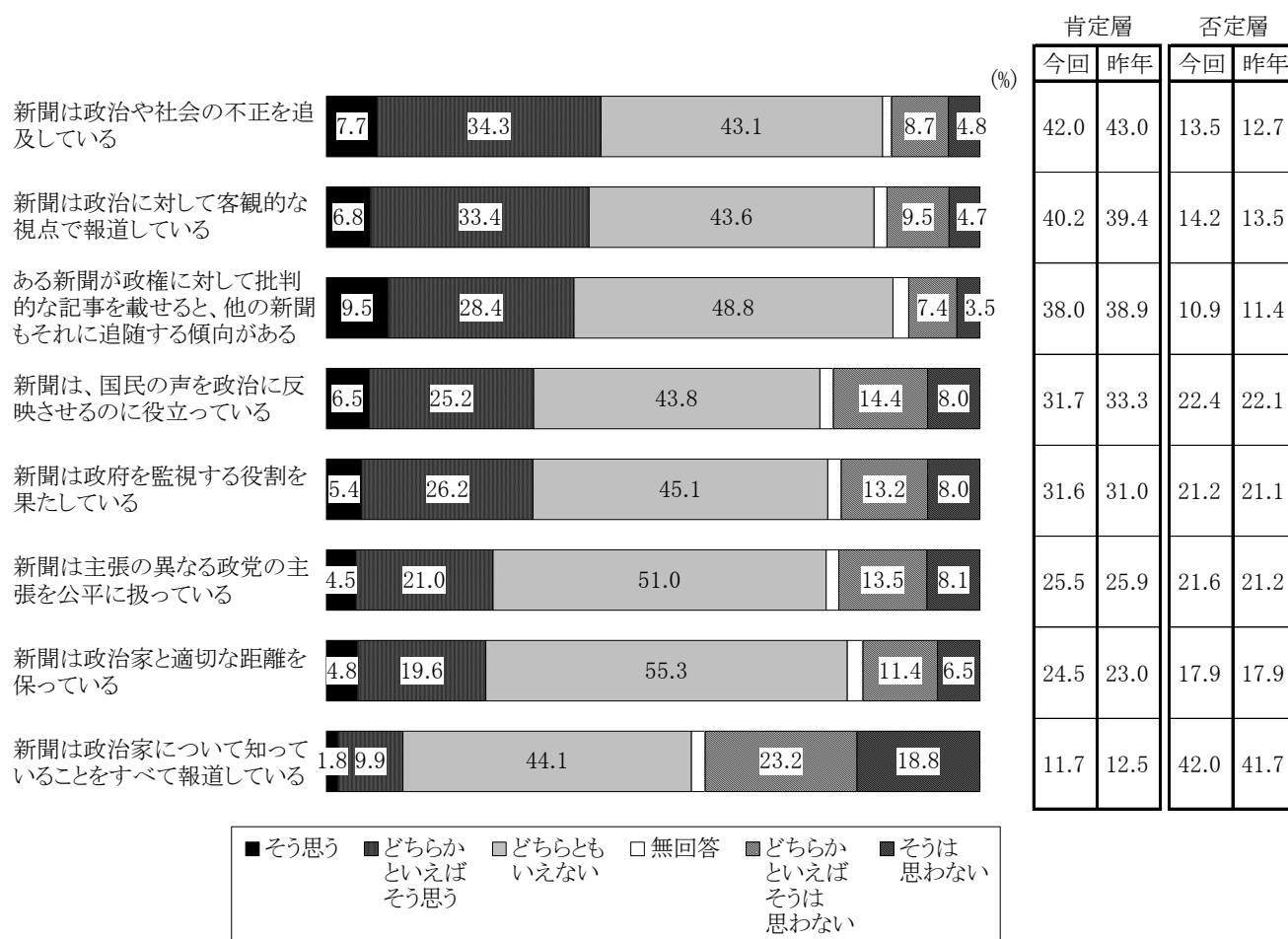
- ・新聞と政治の関係についての意見に関して、肯定層の占める割合を比較したところ、「新聞は政治や社会の不正を追及している」（42.0％）が最も多く、次いで、「新聞は政治に対して客観的な視点で報道している」（40.2％）、「ある新聞が政権に対して批判的な記事を載せると、他の新聞もそれに追随する傾向がある」（38.0％）が多くなっている。
- ・新聞と政治家の関わりに関する項目については評価が低い傾向にある。「新聞は政治家について知っていることをすべて報道している」の否定層が42.0％に上り、「新聞は政治家と適切な距離を保っている」の肯定層が24.5％にとどまるなど評価が厳しい。
- ・昨年度調査と比較すると、いずれも2ポイント以内の増減にとどまり、評価に変化はないと言える。

※肯定層：「そう思う」＋「どちらかといえばそう思う」

否定層：「どちらかといえばそうは思わない」＋「そうは思わない」

図 10-1 新聞と政治についての意見

(n=3,404)



- ・「新聞は政治や社会の不正を追及している」の肯定層は、20代（29.8％）で最も少なく、30代以降、年代が上がるにつれて多くなっている。40代以上では、年代の上昇と共に否定層との差も大きく開いている。
- ・「新聞は政府を監視する役割を果たしている」は、30代以下で否定層が多く、特に20代では肯定層を10ポイント上回っている。40代以上では年代が上がるほど肯定層の割合が高くなり、否定層との差が大きくなっていく。
- ・「新聞は政治家について知る事を全て報道している」は、全年代で否定層が肯定層を上回り、60代以下ではその差が30ポイント以上となっている。また、女性よりも男性で否定層が7ポイント多い。

図 10-2 新聞は政治や社会の不正を追及している（性・年代別）

(n=3,404)

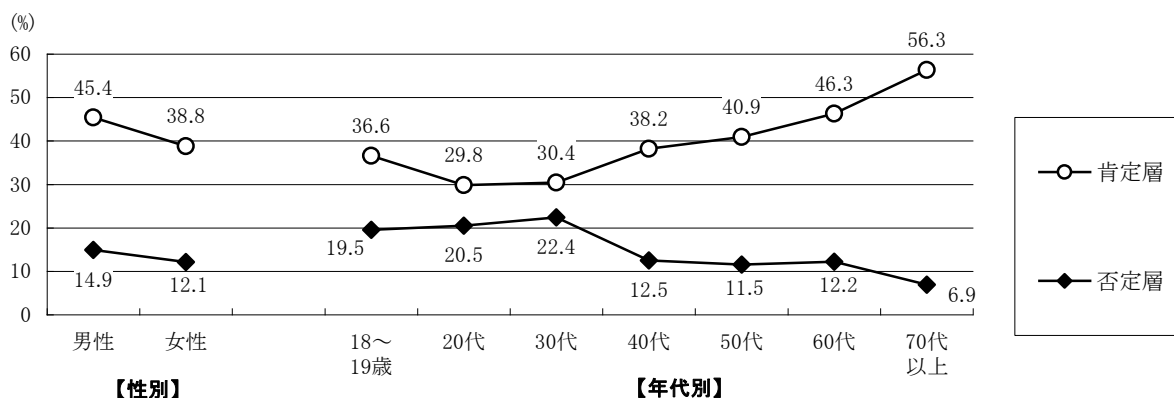


図 10-3 新聞は政府を監視する役割を果たしている（性・年代別）

(n=3,404)

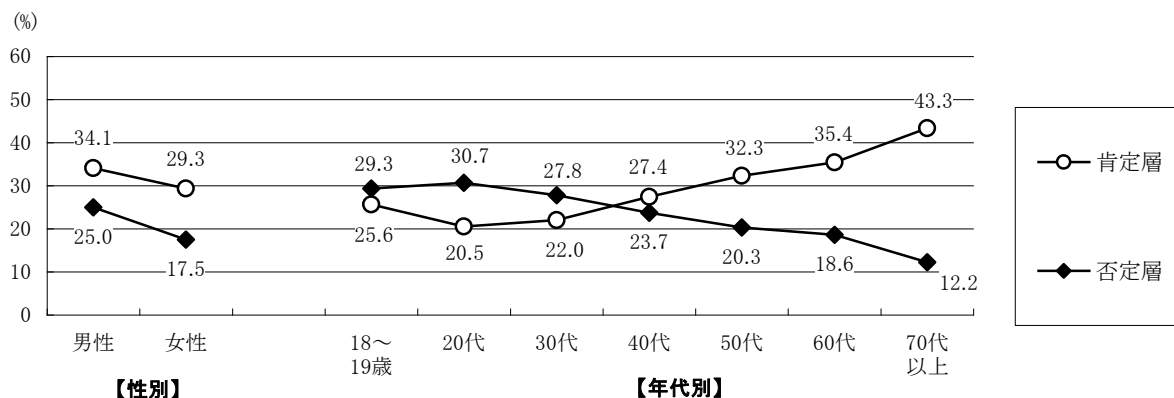
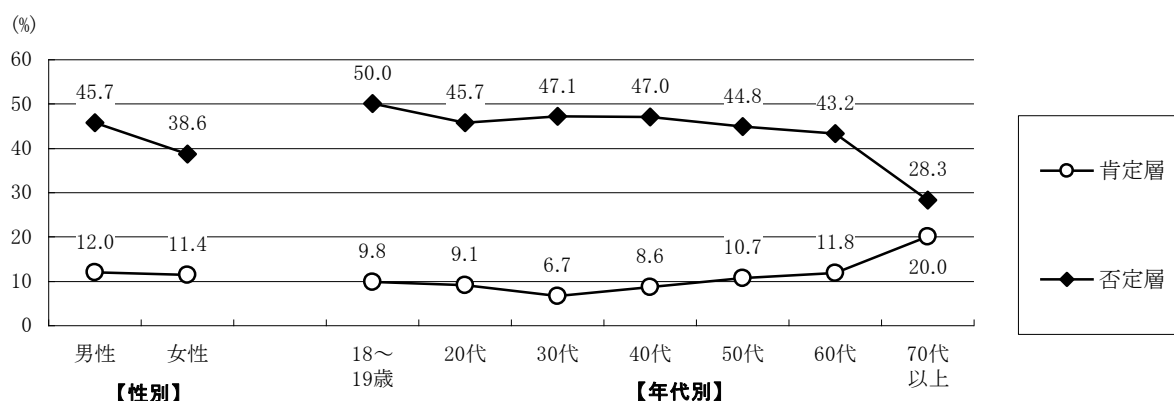


図 10-4 新聞は政治家について知る事を全て報道している（性・年代別）

(n=3,404)



11. 新聞の政治的立場についてどう思う？（＊）

- － 欧米のように政治色を出すことに否定的なのは昨年度と変わらず。 －
「独自色」は 15%、「不偏不党」は 67%

- ・新聞の政治的立場について、「A：新聞は、それぞれ独自の政治色をはっきり出した方がよい」と考える独自色派は 15.2%で、「B：新聞は、1つの政党に偏ることなく不偏不党を貫くべきだ」と考える不偏不党派が 67.0%と多く、欧米のように新聞に政治色を出すことに否定的な意見が圧倒的多数を占めていた。この結果は昨年度と同様である。
- ・年代別に見ると、不偏不党派は最も少ない 18-19 歳でも 56.1%と過半数を占め、いずれの年代（59.2～71.3%）でも、独自色派（13.8～18.4%）を大きく上回っており、新聞は不偏不党であるべきとの意見が強いことが分かる。
- ・昨年度調査と比較すると、不偏不党派優位の傾向は変わらないが、18-19 歳では不偏不党派が減少している。

※独自色派：「Aに近い」＋「どちらかといえばAに近い」
不偏不党派：「どちらかといえばBに近い」＋「Bに近い」

図 11-1 新聞の政治的立場についての意見

(n=3,404)

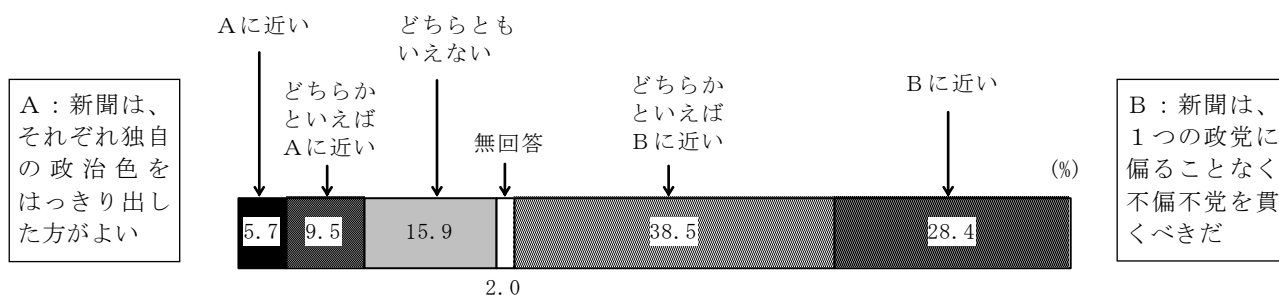
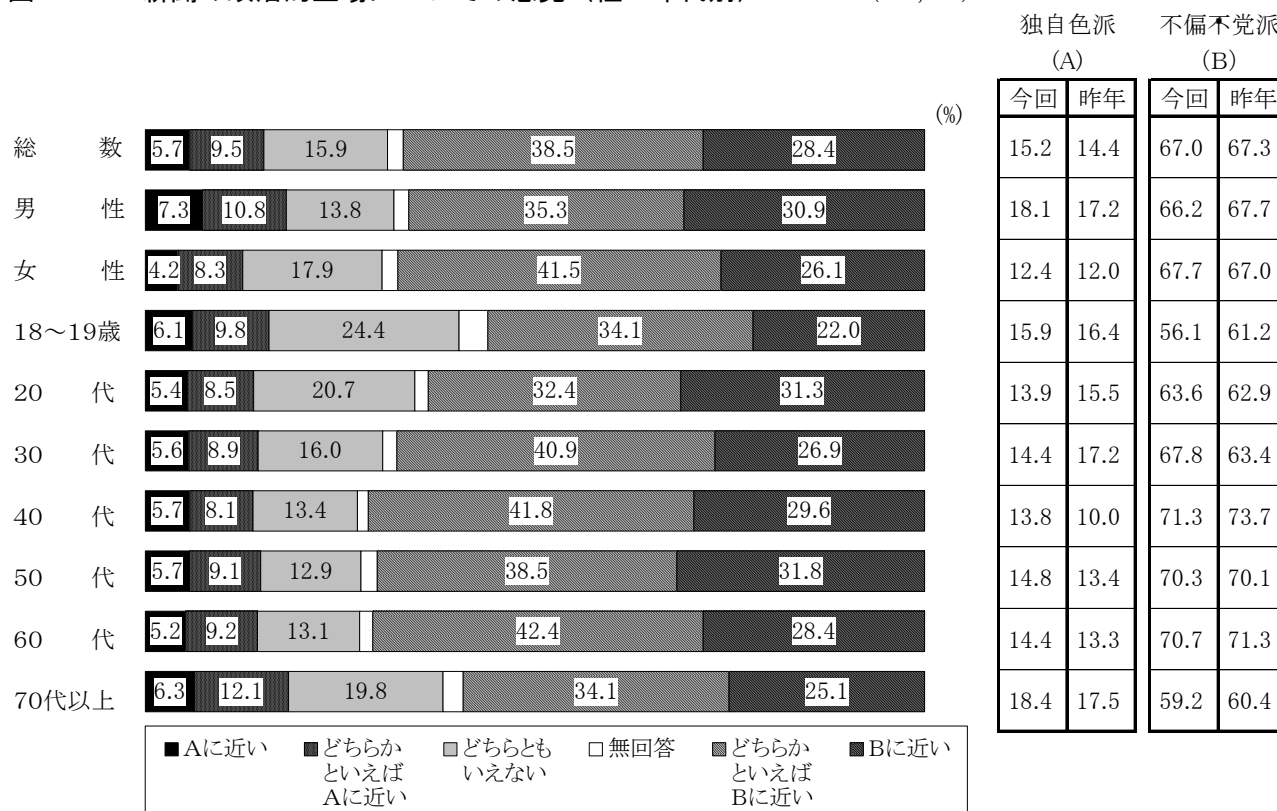


図 11-2 新聞の政治的立場についての意見（性・年代別）

(n=3,404)



12. 新聞の記事の満足度は？（＊）

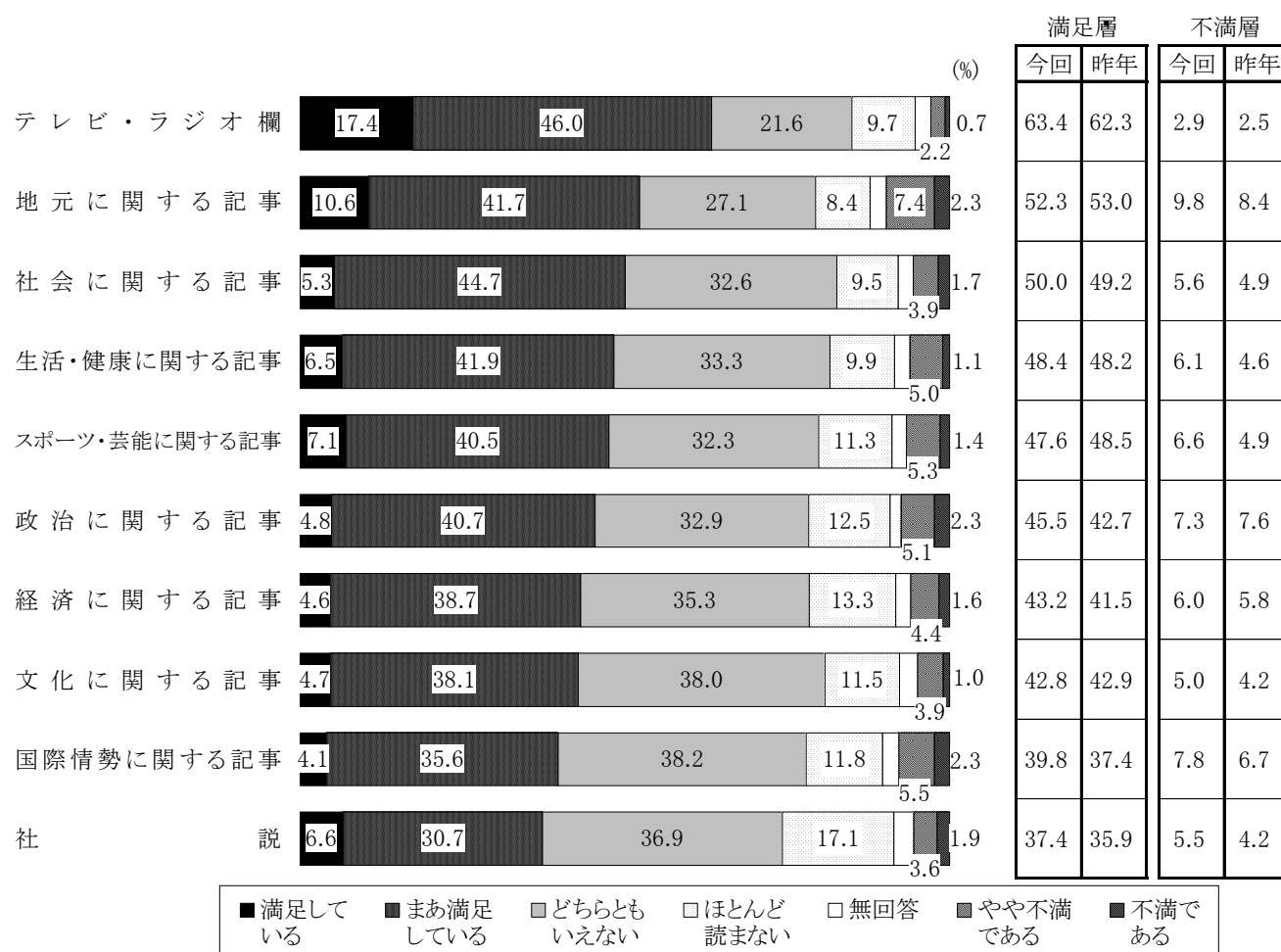
－ ラ・テ欄、地元記事、社会記事など、身近な記事の満足度が高い。 －

- ・新聞の各記事について満足層の占める割合を比較すると、「テレビ・ラジオ欄」が63.4%と6割を占め、テレビ・ラジオなど他のメディアへの窓口として新聞を利用する人が多いことが分かる。次いで「地元に関する記事」（52.3%）、「社会に関する記事」（50.0%）、「生活・健康に関する記事」（48.4%）、「スポーツ・芸能に関する記事」（47.6%）で満足層が5割前後と、生活に密着した身近な記事の満足度が高かった。
- ・「社説」「国際情勢に関する記事」の満足層は4割弱（37.4%、39.8%）と少ないが、不満層も1割（5.5%、7.8%）を下回っており、「どちらともいえない」や「ほとんど読まない」が多く、閱讀度が低いことがうかがえる。
- ・昨年度調査との比較では、全項目について変化はほとんど見られない。

※満足層：「満足している」＋「まあ満足している」
不満層：「やや不満である」＋「不満である」

図 12-1 新聞の記事の満足度

(n=3,404)



- ・「テレビ・ラジオ欄」は、男女、すべての年代で最も満足度が高くなっている。「地元に関する記事」は女性で満足度が5割を超えている。また、「地元に関する記事」は男女差がないが、「社会に関する記事」は男性の満足度が6ポイント高い。
- ・「政治に関する記事」「経済に関する記事」「国際情勢に関する記事」は、女性よりも男性の満足度が高くなっている。年代別に見ると、満足度は、最も少ない20代から40代にかけて増加し、50代で減少するが、60代以降、再度増加していく。

図 12-2 テレビ・ラジオ欄、地元、社会に関する記事に満足している人の割合

(性・年代別)

(n=3,404)

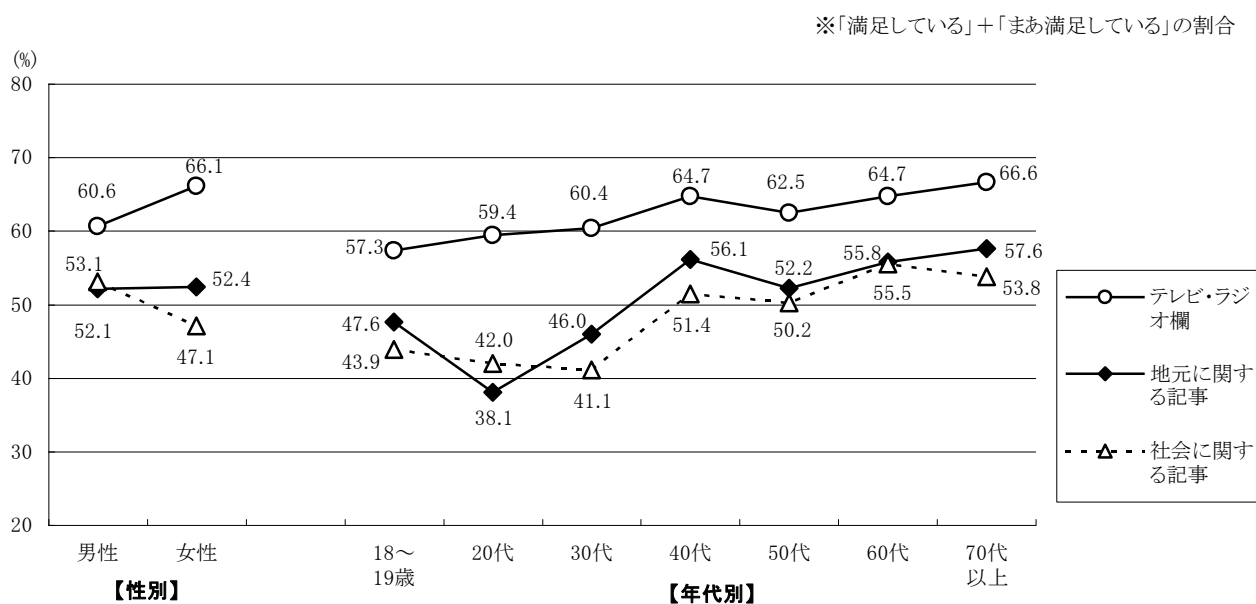
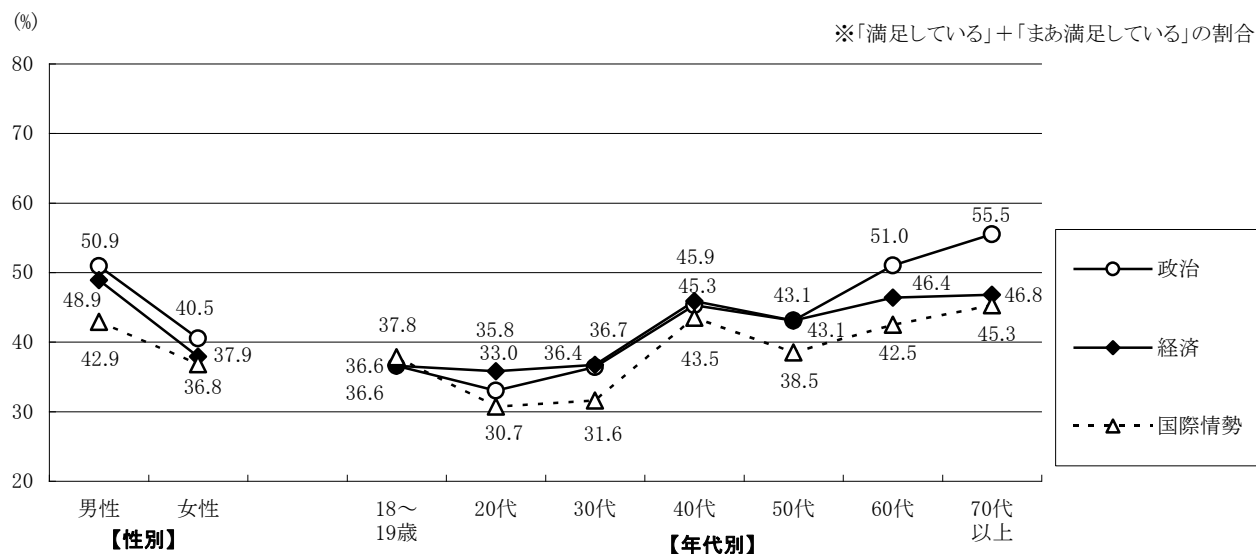


図 12-3 政治、経済、国際情勢に関する記事に満足している人の割合

(性・年代別)

(n=3,404)



13. 新聞全般の満足度は？（＊）

－ 満足している人は59%、不満な人は7%。高年齢層で満足度が高い。 －

- ・新聞全般について、「満足している」は13.6%、「やや満足である」は45.2%であり、この2つを合わせた満足層は58.8%を占める。「やや不満である」と「不満である」を合わせた不満層は7.4%と少数である。
- ・年代別に見ると、満足層は30代以下で4割台にとどまっている。40代では満足層が6割近くとなり、以後、年代が高くなるほど多くなっている。一方、不満層は30代（12.0%）で最も多いが、他の年代では1割未満となり、圧倒的に満足層の方が多くなっている。

※満足層：「満足している」＋「やや満足である」

不満層：「やや不満である」＋「不満である」

図 13-1 新聞全般の満足度

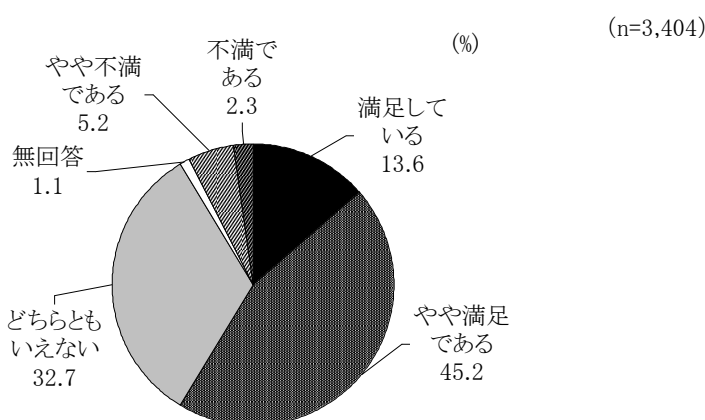
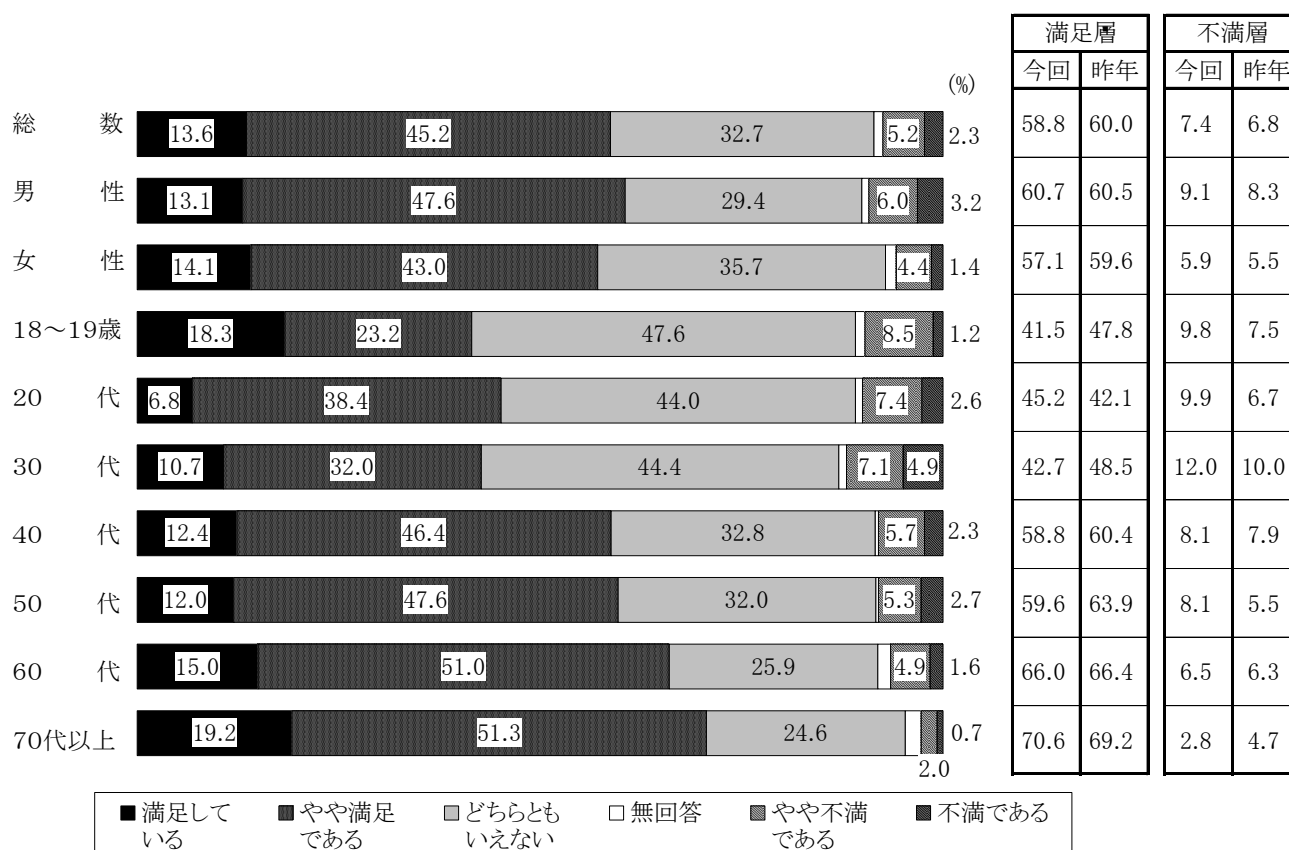


図 13-2 新聞全般の満足度（性・年代別）

(n=3,404)



《生活の中の新聞》

14. 新聞を読んでいる人は？（＊）

－ 「読んでいる」は朝刊 79%、夕刊 29%。朝夕刊共に閲読率は減少傾向。 －

- ・朝刊を読んでいる人は 78.7%を占めているが、調査開始以来初めて8割を切った。内訳を見ると、「毎日」読んでいる人（57.8%）が過半数を占めている。「毎日」読んでいる人は20代以下で2割前後にとどまるが、年代が上がるほど増加し、40代以上では5割を超え、70代以上（80.8%）で8割に達する。
- ・昨年度調査と比較すると、朝刊を読んでいる人は70代以上を除くすべての年代で減少し、中でも20～40代で5～9ポイントの減少となった。また、「毎日」読んでいる人については、18-19歳で10ポイントの増加となっているものの、他の年代では減少し、中でも30～50代で5～8ポイントの減少となった。

図 14-1 新聞（朝刊）の閲読頻度

(n=3,404)

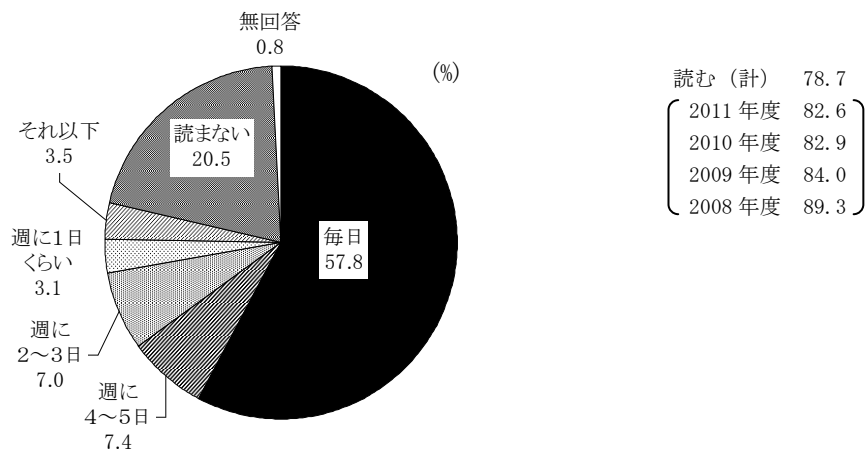


図 14-2 新聞（朝刊）の閲読頻度（読む（計））
（性・年代別）

(n=3,404)

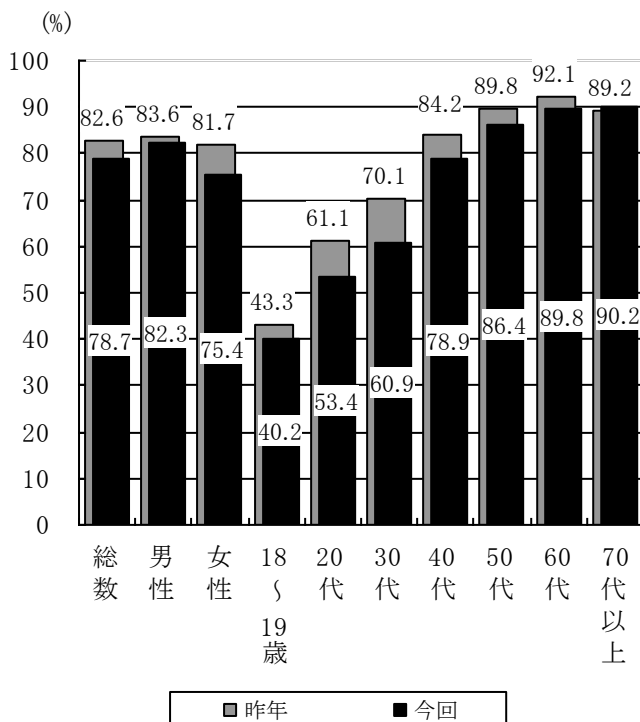
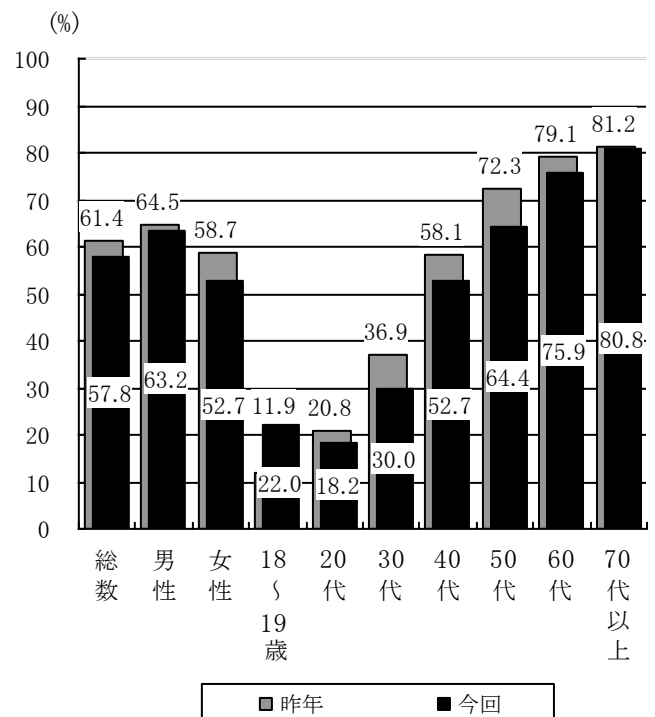


図 14-3 新聞（朝刊）の閲読頻度（毎日）
（性・年代別）

(n=3,404)



- ・夕刊を読む人は28.5%で、調査開始以来、減少傾向が続いている。そのうち「毎日」読んでいる人は18.1%にとどまっている。
- ・夕刊を読む人は、18-19歳（10ポイント）、20代（4ポイント）、60代（6ポイント）で、昨年度よりも減少している。

図 14-4 新聞（夕刊）の閲読頻度

(n=3,404)

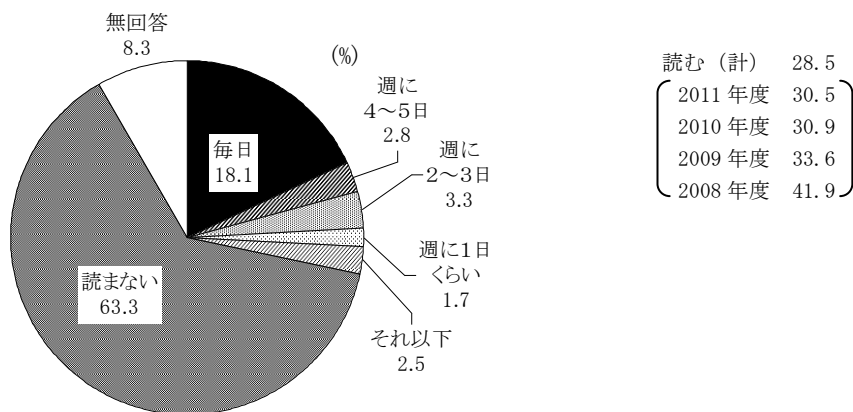


図 14-5 新聞（夕刊）の閲読頻度（読む（計））

(性・年代別)

(n=3,404)

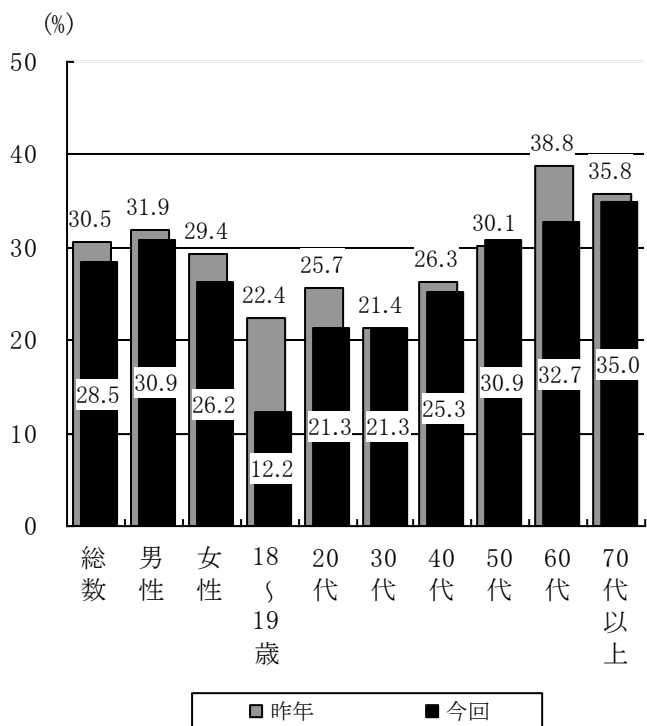
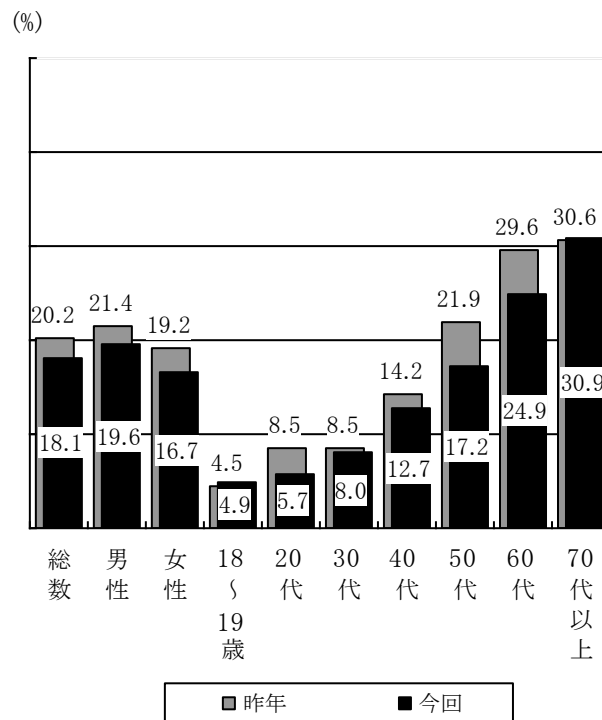


図 14-6 新聞（夕刊）の閲読頻度（毎日）

(性・年代別)

(n=3,404)



(朝刊や夕刊を読んでいる人に) (全体の 79.2%)

15. 新聞を読む時間は？（＊）

－ 平均時間は 27 分で昨年度と変わらず。若い世代ほど短い。 －

- ・新聞を読む時間は、1 日平均で 26.9 分で、昨年度から 0.6 分短くなった。
- ・年代別に見ると、平均時間は 60 代以上では 30 分（31.5 分、37.9 分）を超えているが、30 代では 17.0 分と 10 分台に減少し、20 代 12.7 分、18-19 歳 9.7 分と年代が下がるほど短くなっている。若い年代での新聞離れが見てとれる。
- ・昨年度調査と比較すると、平均時間はすべての年代で減少し、最も減少したのは 18-19 歳で 3.5 分、次いで 70 代以上で 2.3 分短くなっている。

図 15-1 新聞を読んでいる人 (n=3,404)

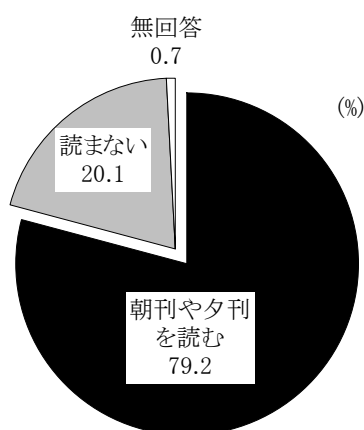


図 15-2 新聞の 1 日の閲読時間 (n=2,695)

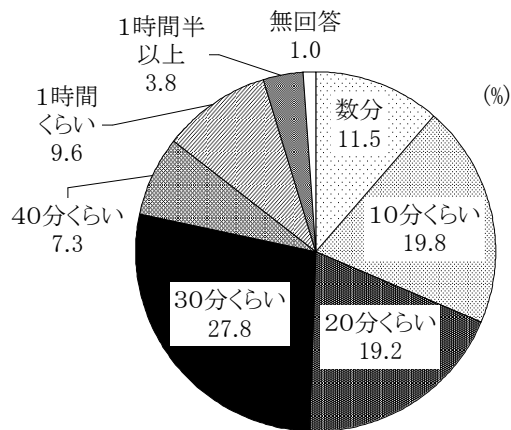
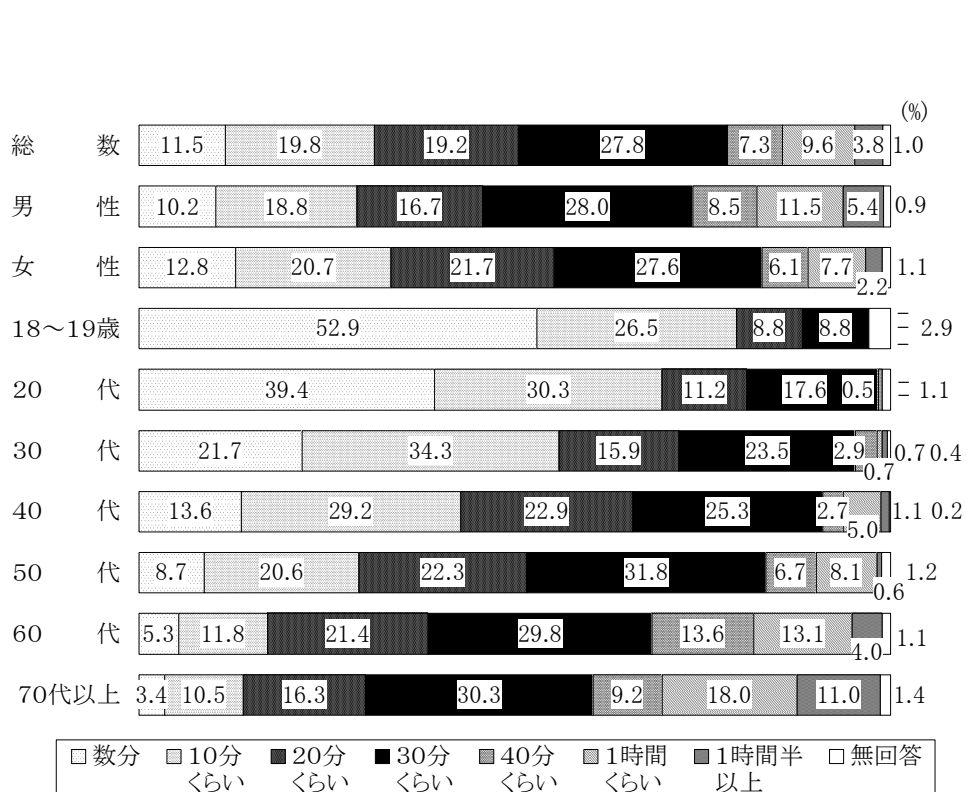


図 15-3 新聞の 1 日の閲読時間（性・年代別） (n=2,695)



平均時間 (分)	
今回	昨年
26.9	27.5
29.3	30.4
24.4	25.0
9.7	13.2
12.7	14.1
17.0	18.0
20.9	21.4
24.6	25.6
31.5	32.8
37.9	40.2

(朝刊や夕刊を読んでいる人に) (全体の 79.2%)

16. 新聞を読む場所は？（＊）

－ 新聞を読むのは朝刊、夕刊共に自宅が中心。 －

- ・新聞を読む場所としては、朝刊は「自宅（午前中）」（75.4%）をあげる人が7割を超え、圧倒的に多い。次いで、「自宅（夕方以降）」（31.6%）、「自宅（午後）」（16.5%）、「職場・学校」（11.1%）が続く、すべての時間帯を合わせると「自宅」をあげた人は92.1%に上る。夕刊も「自宅（夕方以降）」が27.3%で最も多くなっている。
- ・朝刊について年代別に見ると、「自宅（午前中）」は20代で最も少なく、30代以降、年代が上がるほど増加し、70代以上では9割（90.3%）を超える。「自宅（夕方以降）」は18-19歳で半数（50.0%）、20代から50代で3割台後半（36.6～39.4%）となっている。「職場・学校」は20代から50代で1割台後半（15.5～17.6%）となっている。

図 16-1 新聞を読む場所

(複数回答、n=2,695)

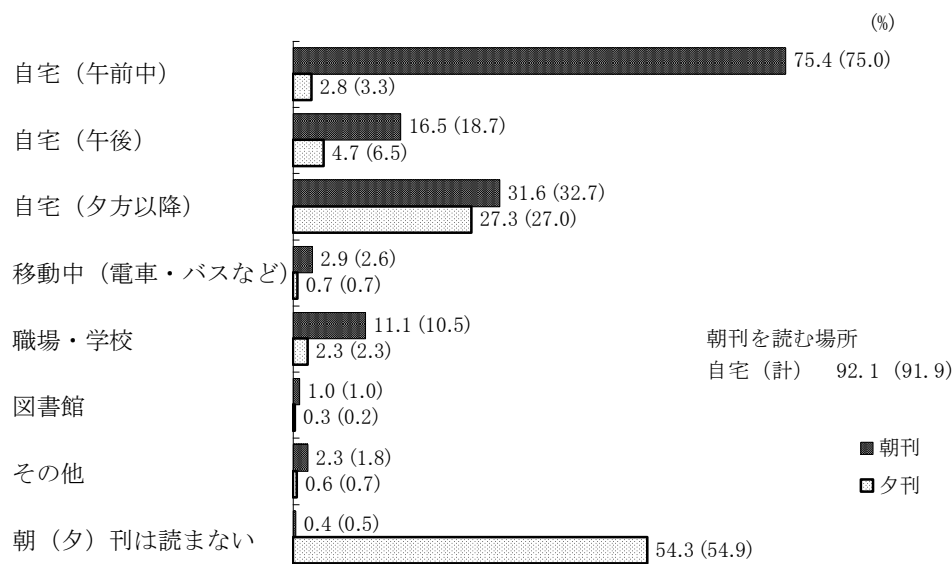
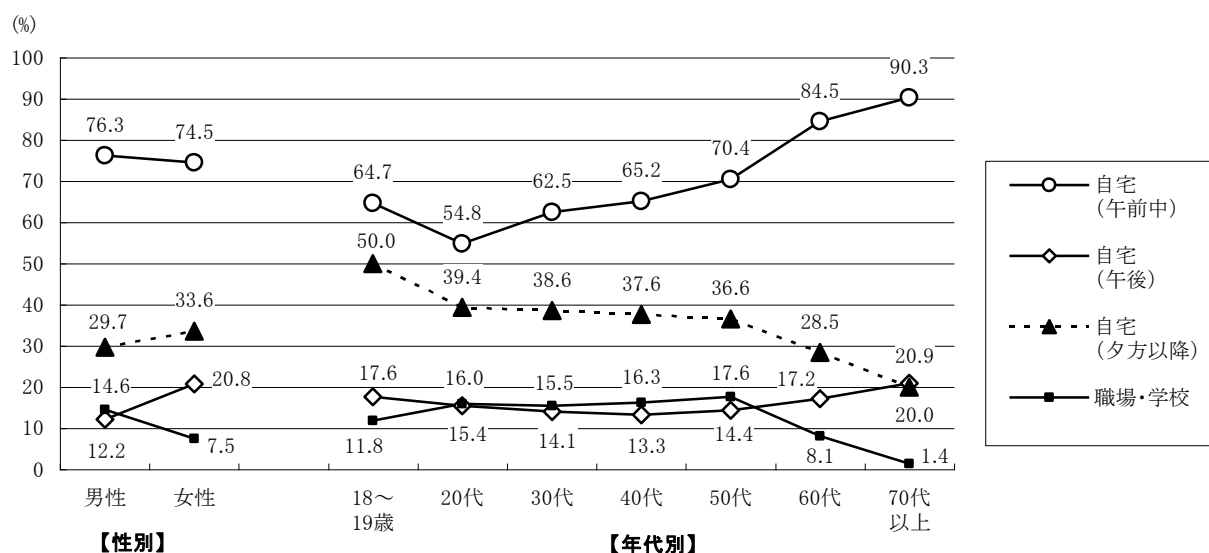


図 16-2 新聞（朝刊）を読む場所（性・年代別）

(複数回答、n=2,695)



(朝刊や夕刊を読んでいる人に) (全体の 79.2%)

17. 新聞を読む理由は？（＊）

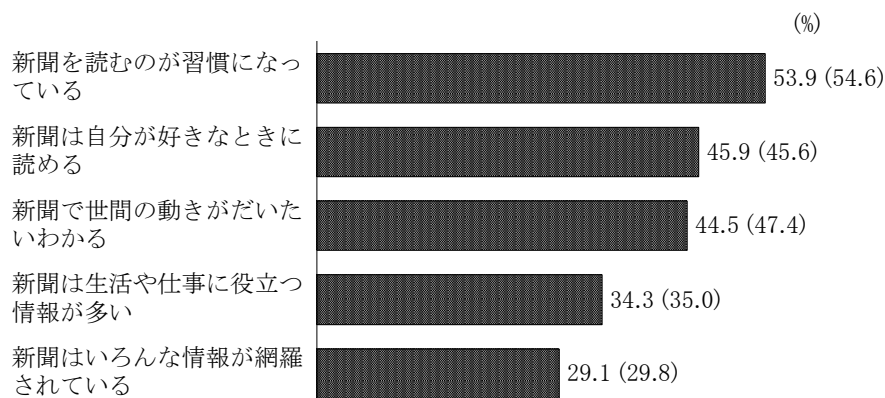
－ 新聞を読むことは生活の一部。

1 位「習慣になっている」、2 位「好きなときに読める」－

- ・新聞を読む理由としては、「新聞を読むのが習慣になっている」(53.9%) をあげる人が半数強と最も多く、新聞を読むことが生活の一部となっていることがうかがえる。次いで、「新聞は自分が好きなときに読める」(45.9%)、「新聞で世間の動きがだいたいわかる」(44.5%) をあげる人が多い。
- ・年代別に見ると、「新聞を読むのが習慣になっている」は 20 代 (23.4%) で最も少なく、30 代以降、年代が上がるほど増加し、40 代以上では最大の理由となっている。一方、30 代以下では「新聞は自分が好きなときに読める」「新聞で世間の動きがだいたいわかる」の方が「新聞を読むのが習慣になっている」より多くあげられている。

図 17-1 新聞を読む理由

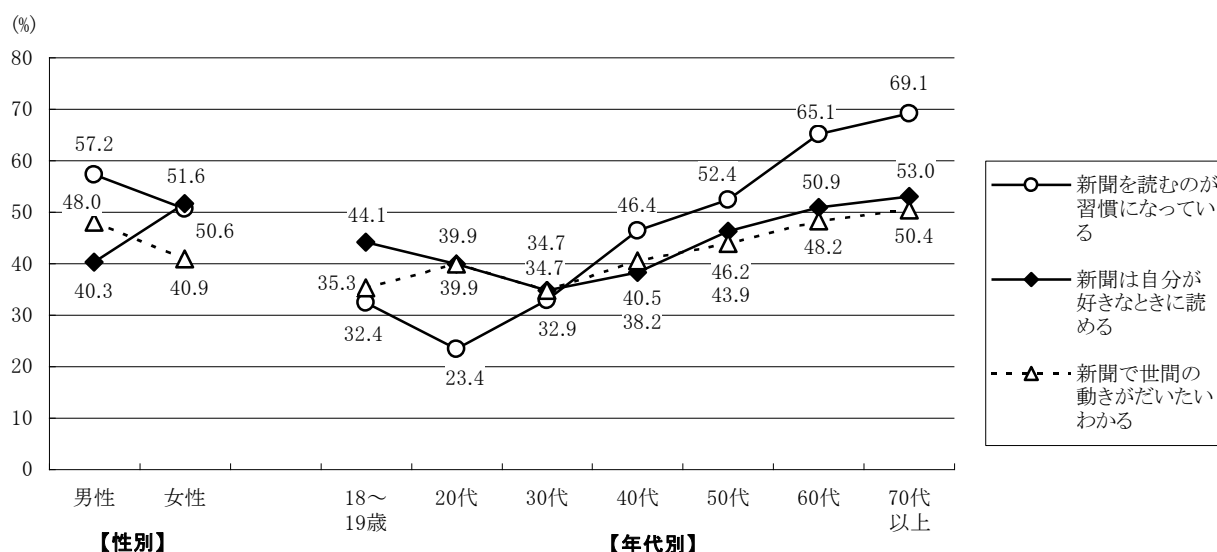
(複数回答、n=2,695)



注：() 内は昨年度調査の数値

図 17-2 新聞を読む理由（性・年代別）

(複数回答、n=2,695)



(朝刊や夕刊を読んでいる人に) (全体の 79.2%)

18. よく読む新聞記事は？（＊）

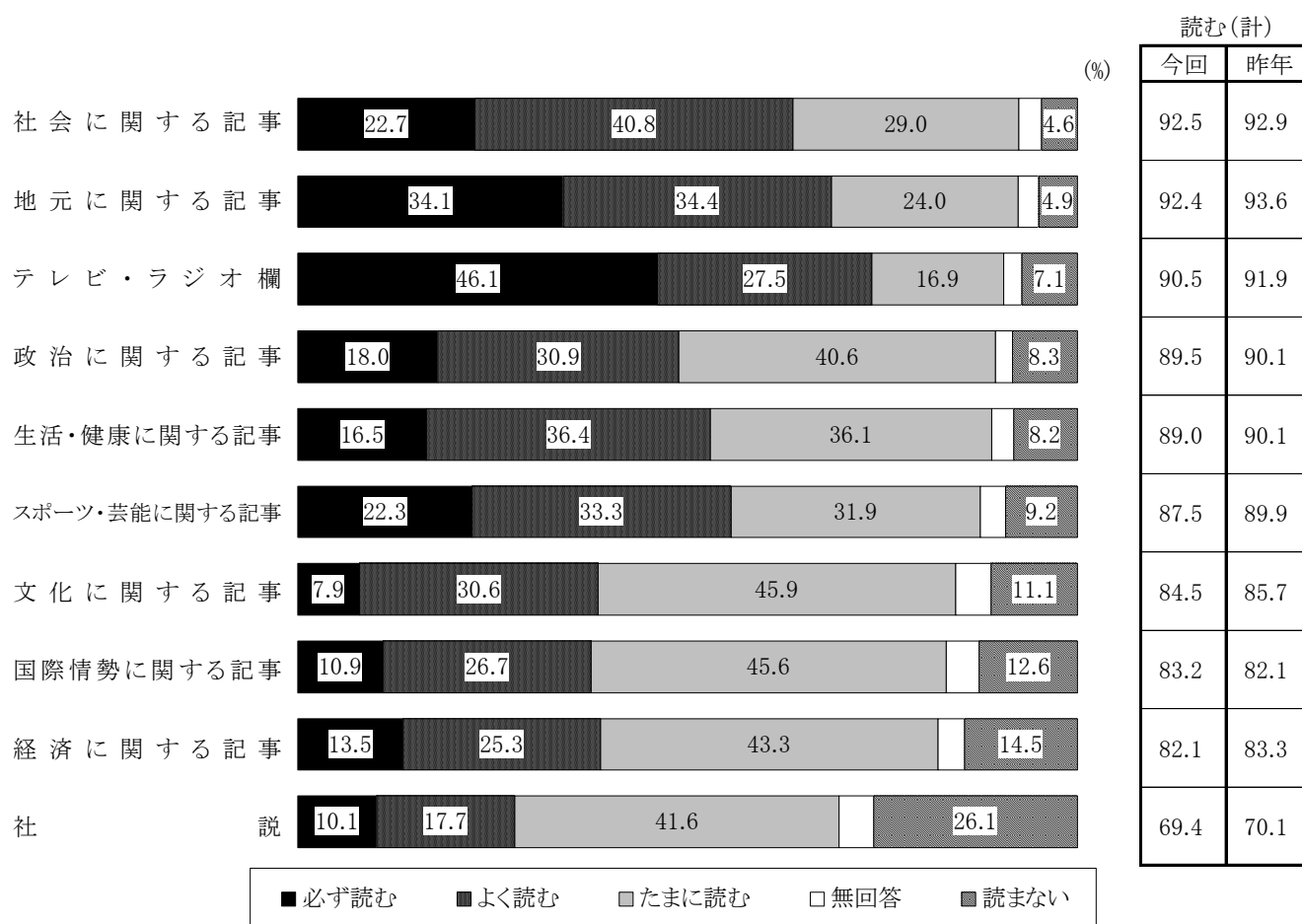
－ 身近な記事が人気。1位「社会記事」、2位「地元記事」、3位「ラ・テ欄」 －

- ・よく読む新聞の記事については、「必ず読む」「よく読む」「たまに読む」を合わせた『読む(計)』は「社会に関する記事」(92.5%)と「地元に関する記事」(92.4%)が多く、次いで「テレビ・ラジオ欄」(90.5%)が9割強となっており、生活に密着した身近な記事がよく読まれていた。
- ・一方、「社説」は、『読む(計)』が7割(69.4%)にとどまり、「読まない」が26.1%と最も多くなっている。

※『読む(計)』＝「必ず読む」＋「よく読む」＋「たまに読む」

図 18-1 新聞でよく読む記事

(n=2,695)



(朝刊や夕刊を「読まない」と答えた人に) (全体の 20.1%)

19. 新聞を読まない理由は？（＊）

- － 1 位は「テレビやインターネットなど他の情報で十分だから」(68%)、
2 位「新聞を取っていないから」(42%)。－

- ・新聞を読まない理由としては、「テレビやインターネットなど他の情報で十分だから」(67.7%) をあげる人が 7 割近くで、最も多い。次いで、「新聞を取っていないから」(41.5%)、「新聞は高いから (お金がかかるから)」(28.0%) の順になっている。新聞以外のメディアへの接触が新聞離れの大きな要因となっていることがうかがえる。
- ・年代別に見ると、「テレビやインターネットなど他の情報で十分だから」が 70 代以上を除き、最も大きな理由となっているが、特に 20 代から 50 代では 7 割を超える。70 代以上では「新聞を取っていないから」が最大の理由となっている。また、「新聞は高いから (お金がかかるから)」は、30 代 (42.1%) をピークとする曲線を描いている。
- ・昨年度調査と比較すると、「新聞を読む時間がないから」が 3 ポイント増加しているが、傾向に変化は見られない。

図 19-1 新聞を読まない人 (n=3,404)

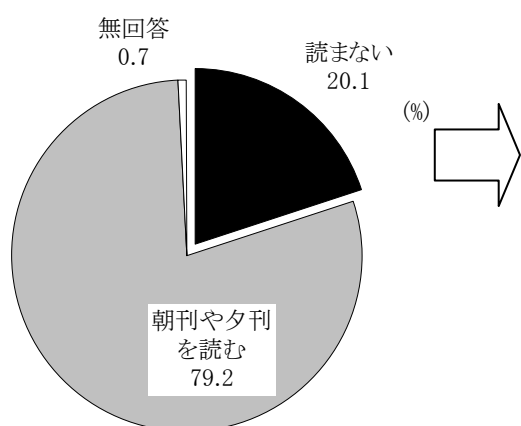
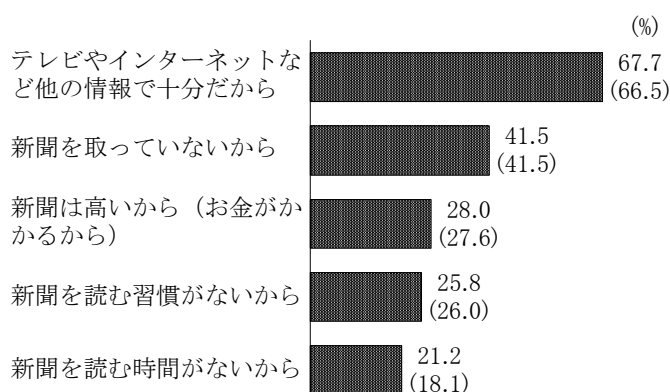


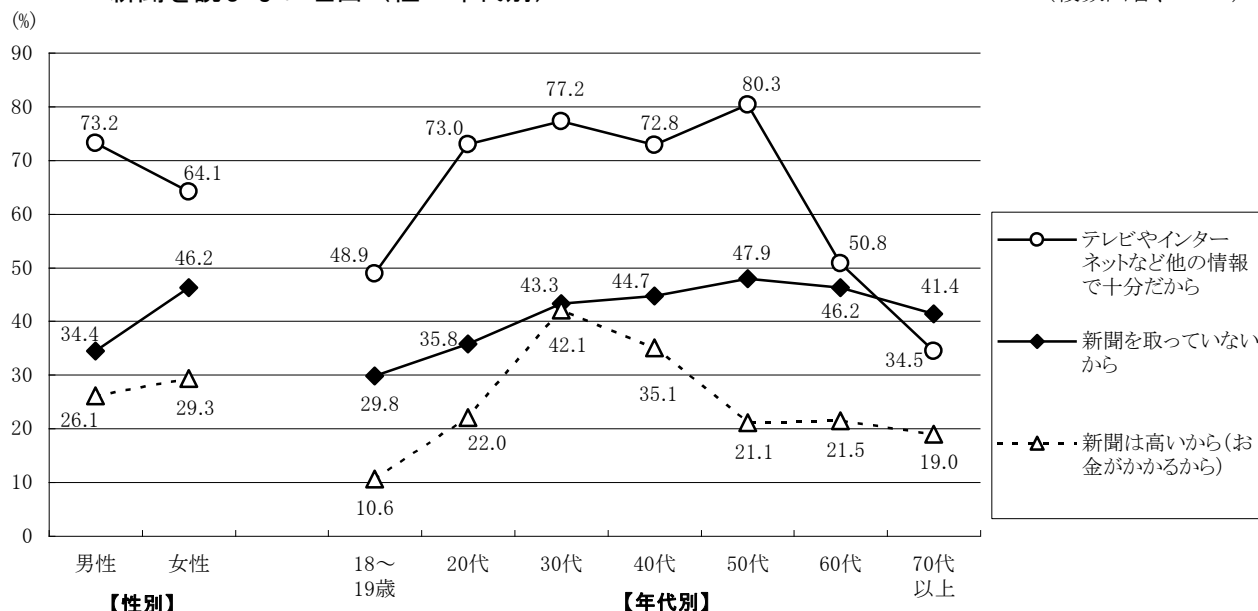
図 19-2 新聞を読まない理由 (複数回答、n=685)



注：() 内は昨年度調査の数値

図 19-3 新聞を読まない理由 (性・年代別)

(複数回答、n=685)



20. 戸別配達をどう思う？（＊）

－ 日本独特の戸別配達制度、「続けてほしい」80%。 －

- ・戸別配達については、「ぜひ続けてほしい」は61.5%、「できれば続けてほしい」は18.5%であり、両者をあわせた『続けてほしい(計)』は80.1%である。毎日決まった時間に自宅に直接新聞が届くという戸別配達へのニーズは高い。
- ・年代別に見ると、『続けてほしい(計)』は20代（59.7%）で最も少なく、30代以降、年代が高いほど多くなり、60代以上では9割前後（88.6%、90.1%）に達する。
- ・過去の調査と比較すると、『続けてほしい(計)』の割合は、調査開始の2008年度は84.1%あったが、2009年度以降は80%前後で推移している。年代別に見ると、2011年度調査から今回にかけて減少が最も多いのは40代で、4ポイント減となっている。

※『続けてほしい(計)』＝「ぜひ続けてほしい」＋「できれば続けてほしい」

図 20-1 戸別配達の存続

(n=3,404)

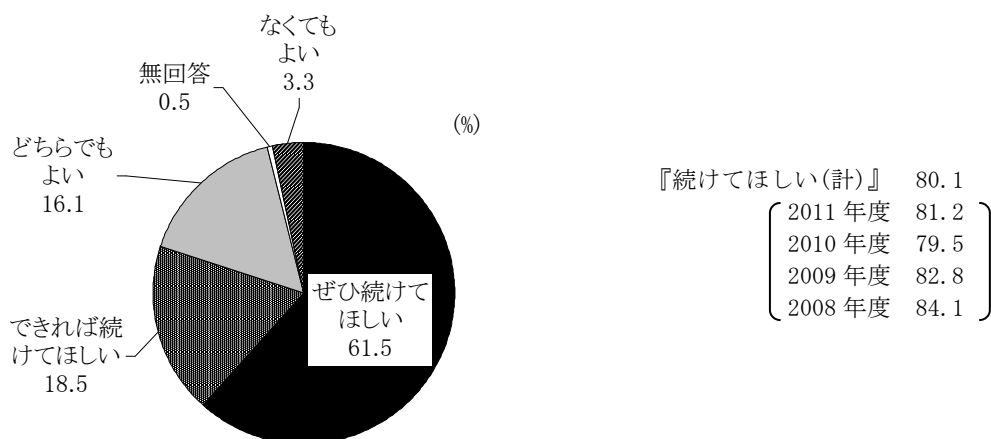
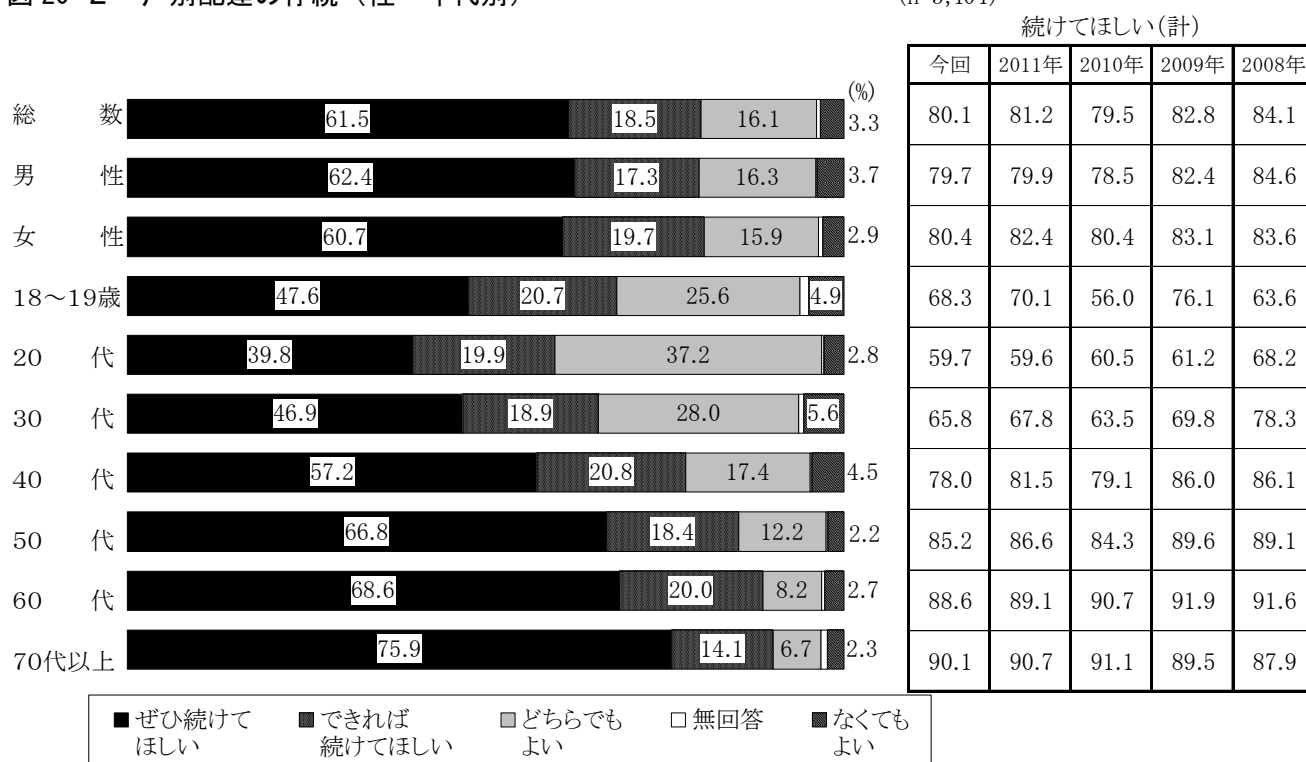


図 20-2 戸別配達の存続（性・年代別）

(n=3,404)



21. 夕刊の発行をどう思う？（＊）

－ 「続けてほしい」は20%。前回より若干の減少。 －

- ・夕刊の発行については、「ぜひ続けてほしい」は9.3%、「できれば続けてほしい」は10.7%であり、両者を合わせた『続けてほしい(計)』は20.1%である。一方、「なくてもよい」は33.6%である。夕刊の発行を続けてほしいという層は2割にとどまり、夕刊の発行への要望は強いとは言えない。
- ・年代別に見ると、夕刊の発行を続けてほしい人は、最も多い70代以上(25.1%)であっても4人に1人の割合となっている。20代から50代では2割(14.0%～19.2%)を切っている。どの年代においても、夕刊はなくてもよいと考える人が多く、『続けてほしい(計)』の割合を上回る。
- ・過去の調査と比較すると、夕刊の発行への要望は、調査開始の2008年度は28.0%と3割近くであったが、2009年度以来、20%台前半で推移している。年代別に見ると、2011年度調査から今回にかけて減少が最も多いのは60代で、3ポイント減となっている。

※『続けてほしい(計)』＝「ぜひ続けてほしい」＋「できれば続けてほしい」

図 21-1 夕刊発行の存続

(n=3,404)

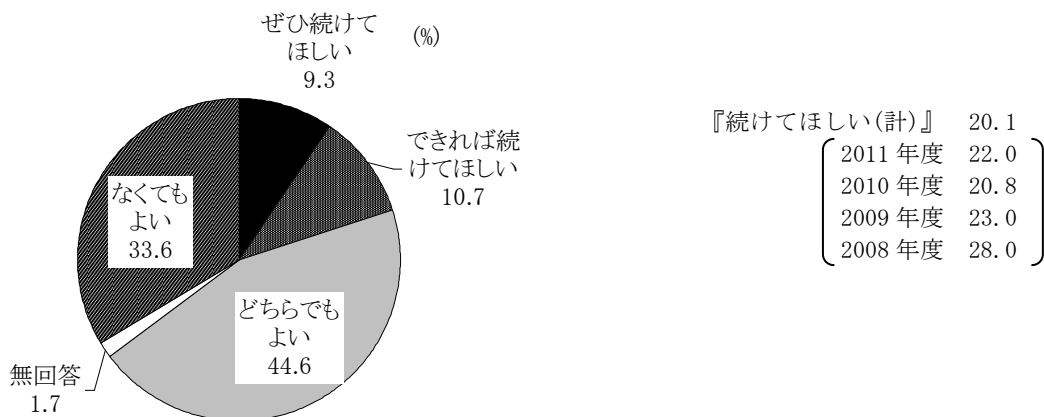
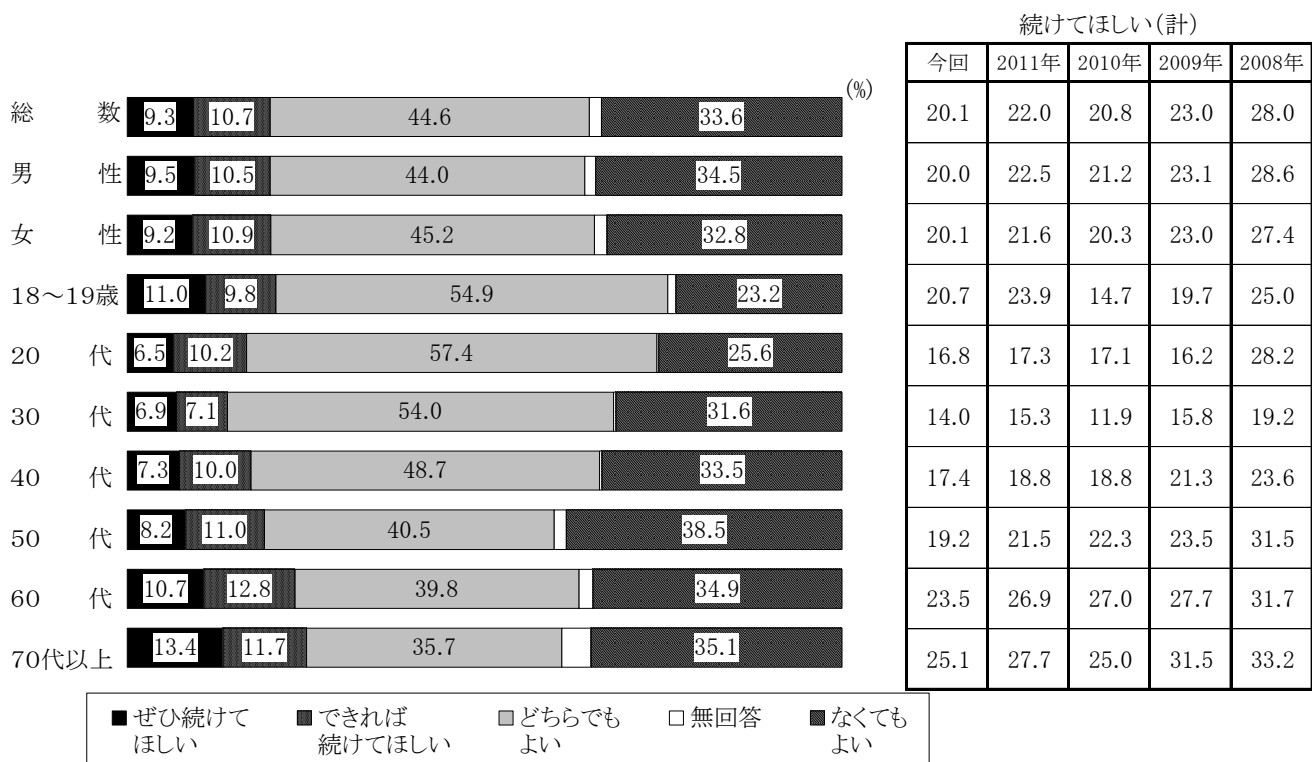


図 21-2 夕刊発行の存続

(n=3,404)



22. 月ぎめ新聞の購読状況は？（＊）

－ 82%が購読。

全国紙は減少傾向、県紙・地方紙、ブロック紙は横ばい。 －

- ・ 自宅で月ぎめで新聞を購読している人は 81.7%と 8 割を超えている。新聞の種類を見ると、「全国紙」を購読している人が 53.8%、「県紙・地方紙」を購読している人が 35.6%、「ブロック 3 紙」を購読している人が 14.4%となっている。また、全国紙を購読している人のうち、「2 紙以上」の購読は 6.7%と少なく、ほとんどが「1 紙のみ」(93.1%) の購読である。
- ・ 過去の調査と比較すると、月ぎめ新聞を購読している人は、調査開始の 2008 年度以降、ゆるやかな減少傾向にある。新聞の種類で見ると、全国紙は減少しているが、県紙・地方紙及びブロック 3 紙は横ばいで推移している。
- ・ 年代別で見ると、月ぎめ新聞を購読している人は、30 代では 6 割強 (61.8%) と最も少なく、20 代以下で約 7 割 (69.5%、70.7%)、40 代で 8 割弱 (77.2%)、50 代以上で 9 割前後 (88.0~91.4%) となっている。
- ・ 年代別に昨年度調査と比較すると、月ぎめ新聞を購読している人は、すべての年代で減少し、中でも 18-19 歳、30 代・40 代で 6～8 ポイントの減少となっている。

図 22-1 月ぎめでとっている新聞の有無
(n=3,404)

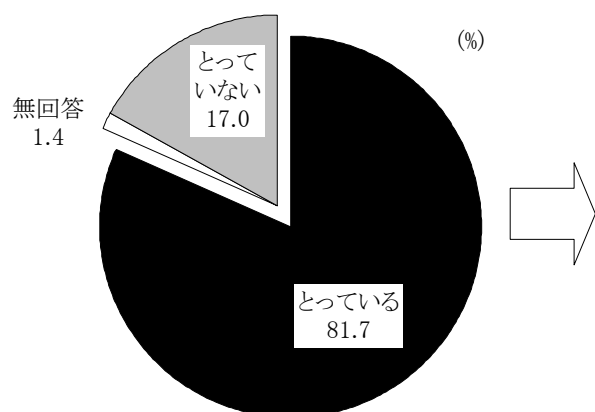


図 22-2 月ぎめでとっている新聞の種類
(複数回答、n=2,781)

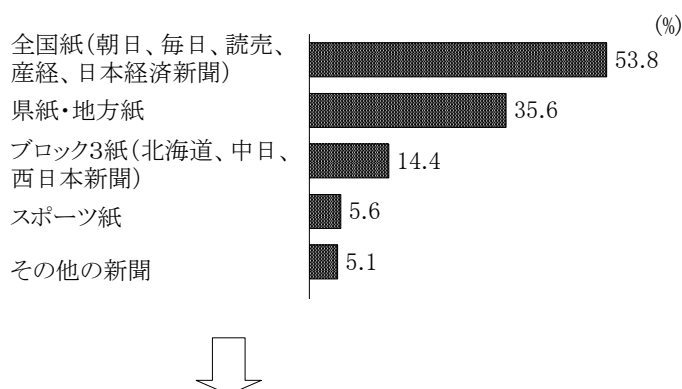


図 22-3 全国紙を何紙とっているか
(n=1,497)



図 22-4 月ぎめでとっている新聞（時系列）

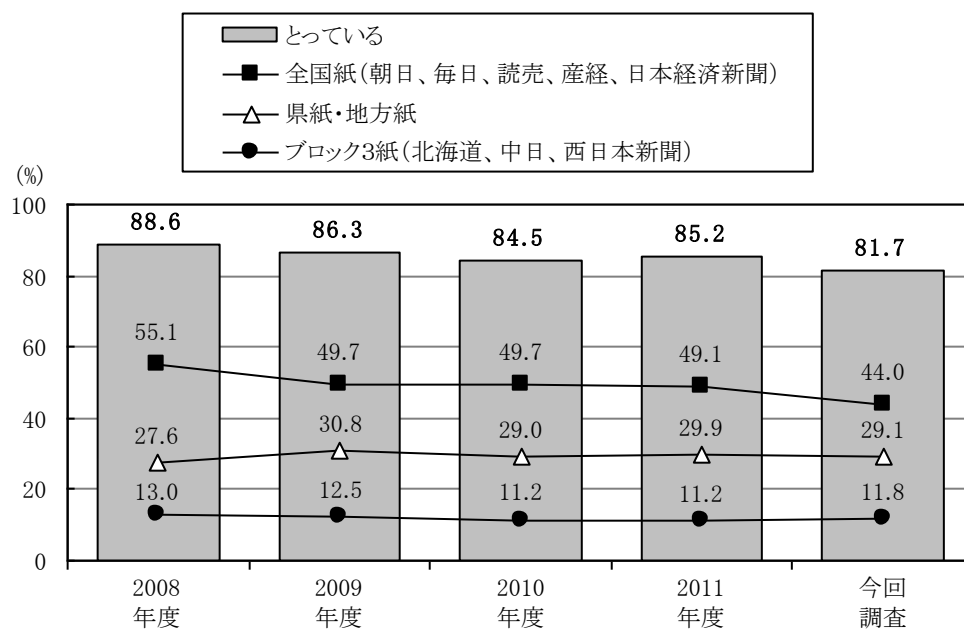
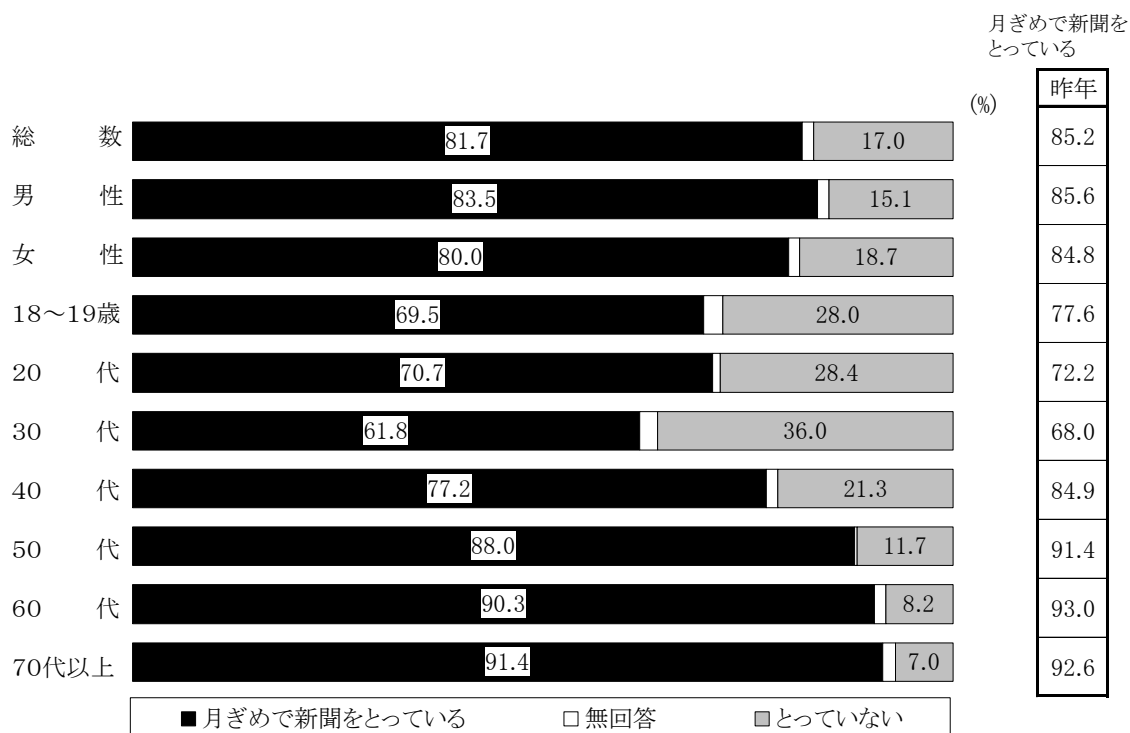


図 22-5 月ぎめでとっている新聞の有無（性・年代別）

(n=3,404)



23. 新聞の購読料をどう思う？（＊）

－ 「高い」とする人は52%。若い世代で負担感が大きい。 －

- ・新聞の1ヶ月の購読料（朝刊と夕刊のセットでおよそ4,000円）について、「かなり高い」は10.8%、「少し高い」は41.1%の回答であった。両者を合わせた『高い(計)』は51.9%となり、半数以上の人が購読料を負担に感じていることが分かる。「妥当である」は45.6%、「少し安い」と「かなり安い」を合わせた『安い(計)』は1.5%とごく少数にとどまっている。
- ・年代別に見ると、『高い(計)』は50代以下では5割（50.9～62.7%）を超えている。一方、60代以上では、『高い(計)』（45.8%、43.4%）を押さえ、「妥当である」とする人が半数以上（51.3%、53.1%）を占め、新聞に金額相応の価値を置いていることがうかがえる。
- ・過去の調査と比較すると、『高い(計)』の割合は、昨年度調査からほとんど変化はない。

※『高い(計)』＝「かなり高い」＋「少し高い」
『安い(計)』＝「少し安い」＋「かなり安い」

図 23-1 新聞の購読料

(n=3,404)

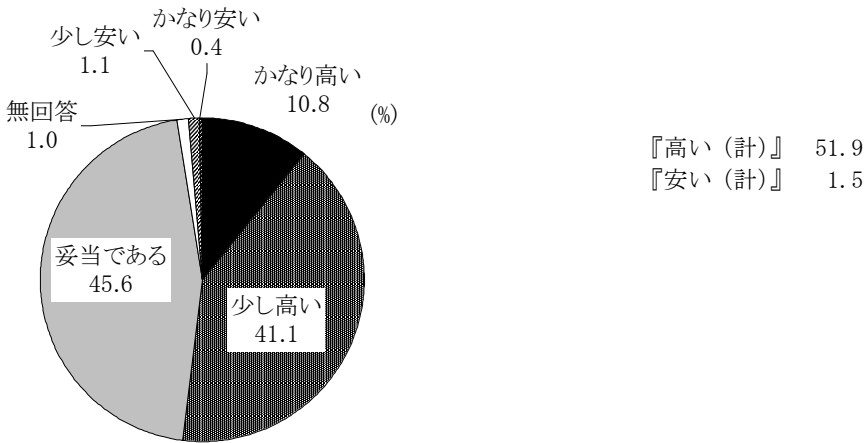
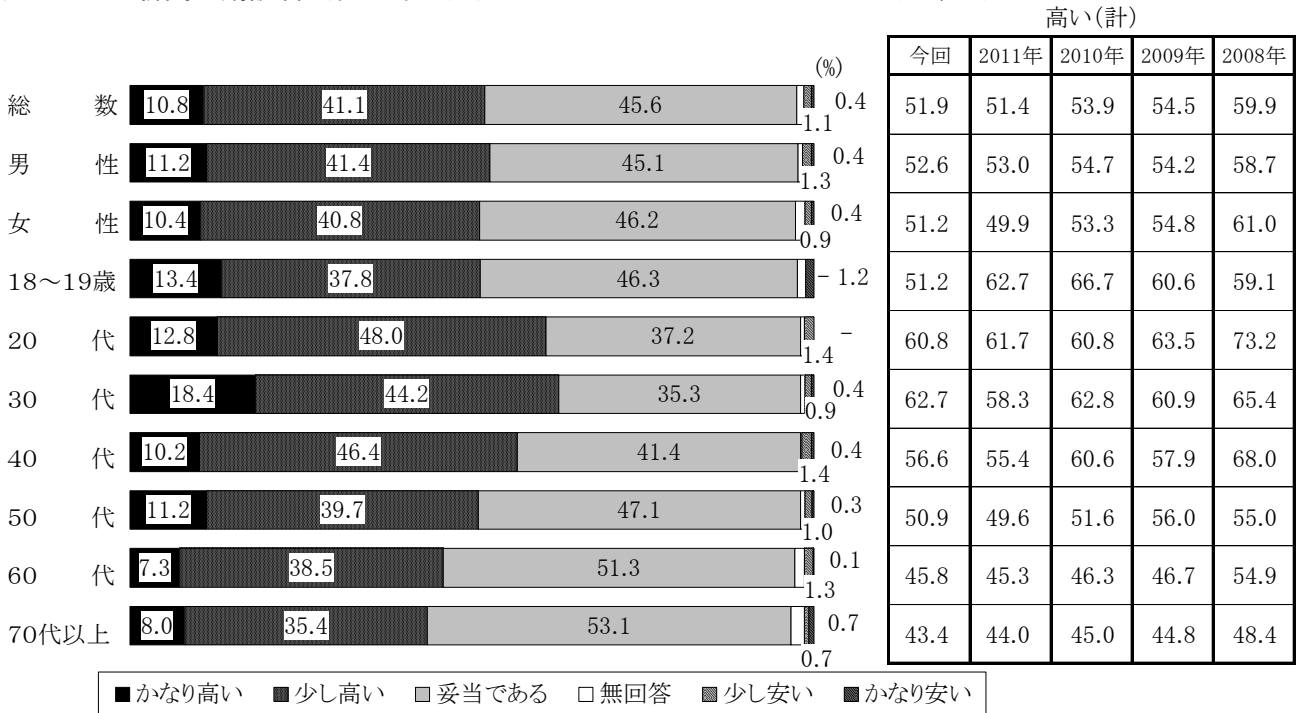


図 23-2 新聞の購読料（性・年代別）

(n=3,404)



24. 通信社の役割を知っている？（＊）

－ 「役割を知っている」人の割合が全年代で増加。 －
「知っている」51%、「知らない」47%

- ・通信社が新聞社や放送局、インターネットサイトなどにニュースを配信していることを「知っている」人は51.2%、「知らない」人は46.5%であった。
- ・性別で見ると、「知っている」人は、女性（45.9%）よりも男性（56.8%）に多い。
- ・年代別に見ると、通信社の役割を「知っている」人は、18-19歳では36.6%と少なく、年代が上がると共に増加し、40代・50代で59.5%と最も多くなり、60代以降は再度減少している。
- ・過去の調査と比較すると、「知っている」人の割合は調査開始以来 45%前後であったが、初めて半数を超えた。年代別に昨年度調査と比較すると、「知っている」人の割合はすべての年代で増加し、中でも20代で11ポイント増加しているのをはじめ、40代以上の各年代で6～9ポイントの増加となっている。

図 24-1 通信社の役割の認知

(n=3,404)

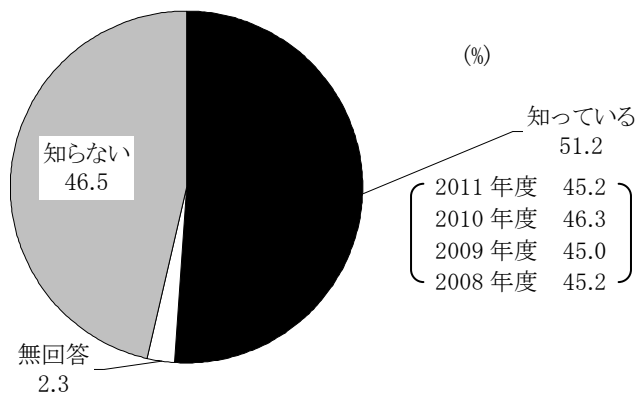
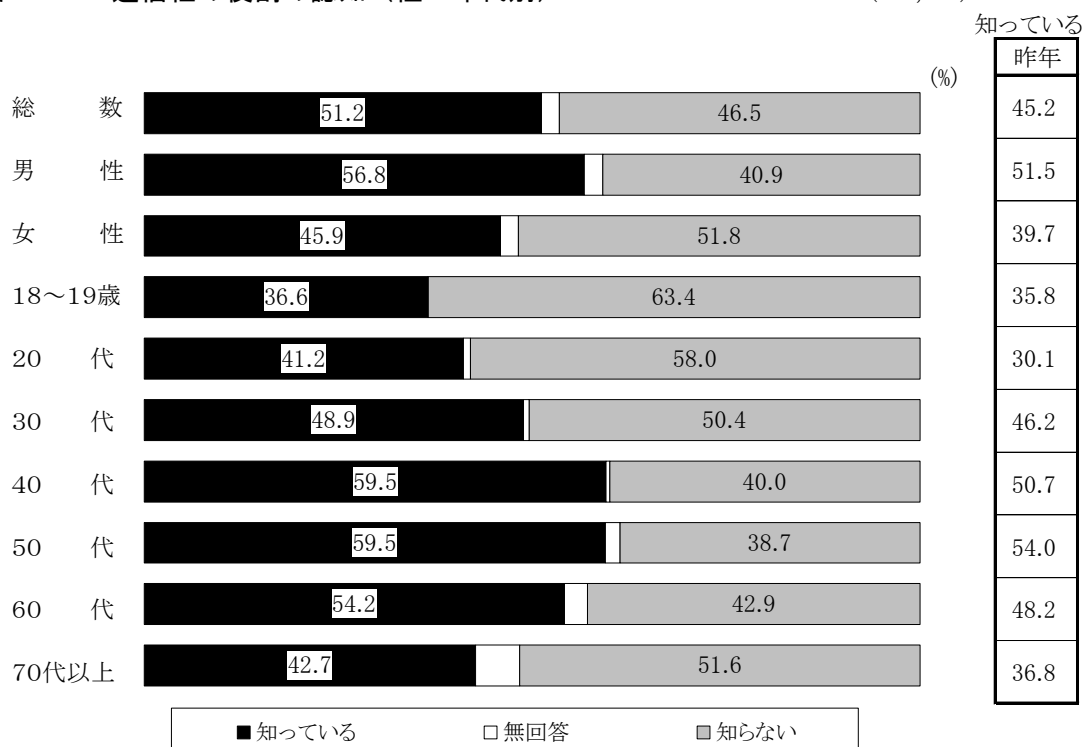


図 24-2 通信社の役割の認知（性・年代別）

(n=3,404)



25. 見たり聞いたりしたことがある通信社は？（＊）

－ 1位「共同通信社」（69%）、2位「ロイター通信」（67%）で順位変わらず。－

- ・見たり聞いたりしたことがある通信社の名前をひとつでもあげた人は80.5%である。最も知名度が高いのは「共同通信社」で69.1%の人があげている。次いで「ロイター通信」が67.0%、「AP通信」が48.0%、「時事通信社」が43.4%、「新華社」が39.0%となっている。
- ・年代別に見ると、50代以上では「共同通信社」の知名度が最も高いが、40代以下では「ロイター通信」が最も高い。
- ・過去の調査と比較すると、大きな変化は見られない。

図 25-1 知っている通信社の有無
(n=3,404)

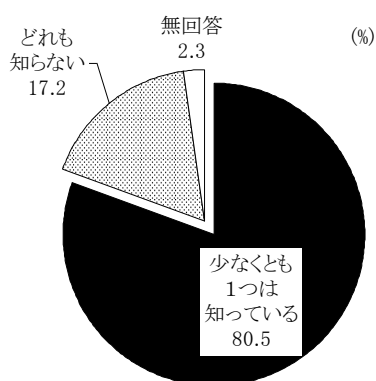
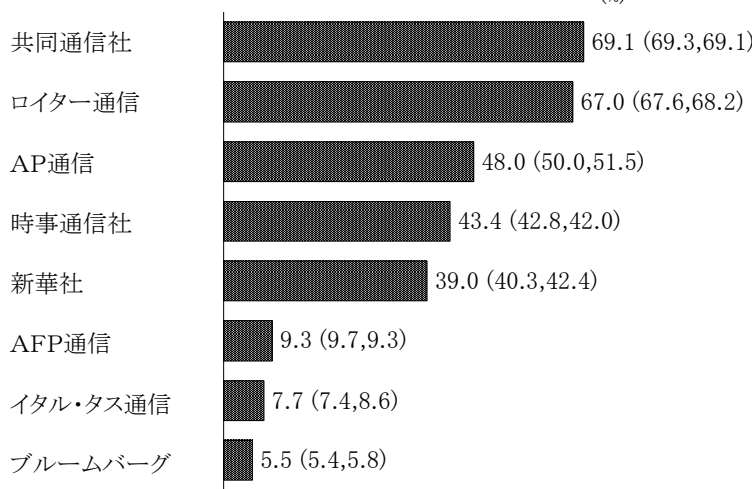


図 25-2 知っている通信社 (複数回答、n=3,404)
(%)



注：（ ）内は左から 2011 年度調査、2010 年度調査の数値

表 25-1 知っている通信社（性・年代別） (複数回答、n=3,404)
(%)

	1 位	2 位	3 位	4 位	5 位
総 数	共同通信社 69.1	ロイター通信 67.0	AP通信 48.0	時事通信社 43.4	新華社 39.0
男 性	共同通信社 74.6	ロイター通信 69.9	AP通信 52.8	時事通信社 50.8	新華社 45.7
女 性	ロイター通信 64.3	共同通信社 63.9	AP通信 43.6	時事通信社 36.5	新華社 32.7
18-19歳	ロイター通信 62.2	共同通信社 43.9	AP通信 34.1	時事通信社 26.8	新華社 14.6
20 代	ロイター通信 64.8	共同通信社 52.3	AP通信 44.9	時事通信社 34.1	新華社 17.3
30 代	ロイター通信 73.3	共同通信社 67.1	AP通信 58.4	時事通信社 46.2	新華社 30.0
40 代	ロイター通信 74.7	共同通信社 74.4	AP通信 58.4	時事通信社 46.6	新華社 42.7
50 代	共同通信社 79.0	ロイター通信 76.1	AP通信 54.6	新華社 47.9	時事通信社 45.5
60 代	共同通信社 72.9	ロイター通信 68.0	新華社 50.0	時事通信社 47.1	AP通信 45.2
70代以上	共同通信社 65.5	ロイター通信 49.4	時事通信社 40.4	新華社 37.0	AP通信 33.2

《新聞のこれからとインターネット》

26. インターネットのニュースをどの程度見る？（＊）

－ 「インターネットニュースを毎日見る」30代以下では半数近く。

インターネットニュースの閲覧は前回調査より全年代で増加。－

- ・インターネットのニュースを閲覧している人は58.4％と半数を超えている。内訳を見ると、「毎日」見ている人（25.7％）が4人に1人の割合になっている。
- ・年代別に見ると、インターネットのニュースを閲覧している人は若年層に多く、特に30代以下では9割前後（88.0～94.9％）と、新聞朝刊の閲読率を上回った。また、インターネットのニュースを「毎日」見ている人は30代以下では半数近く（47.6％～49.8％）に達している。
- ・前回調査と比較すると、インターネットのニュースを閲覧している人はすべての年代で増加し、中でも18-19歳と60代で6ポイントの増加となっている。

図 26-1 インターネットニュースの閲覧状況

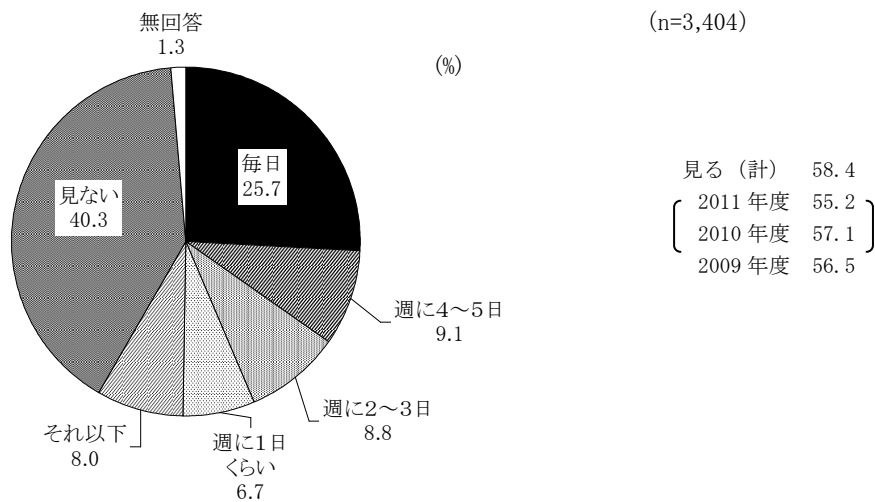


図 26-2 インターネットニュースの閲覧状況
（見る（計））（性・年代別）（n=3,404）

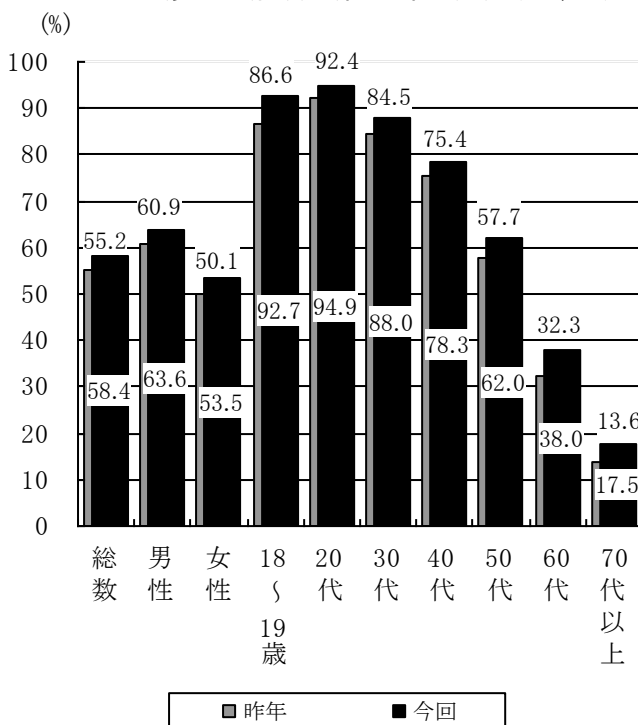
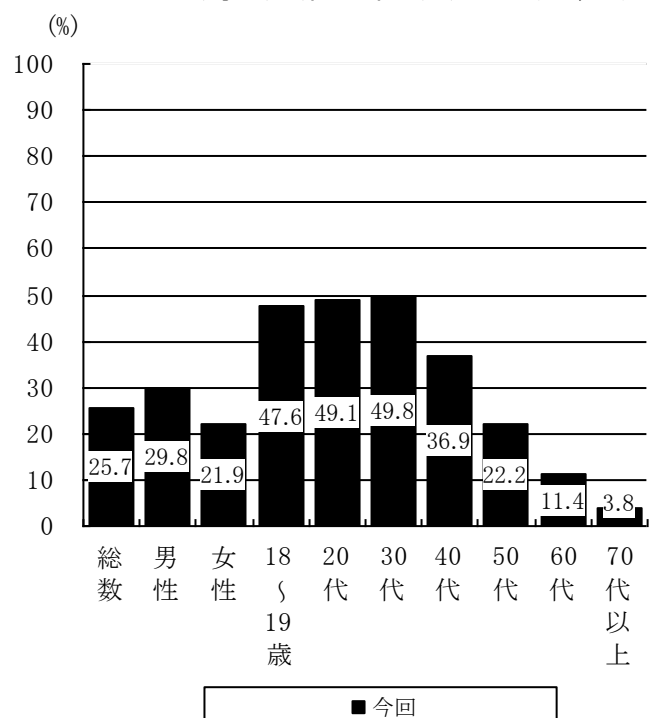


図 26-3 インターネットニュースの閲覧状況
（毎日）（性・年代別）（n=3,404）



(インターネットニュースを見ている人に) (全体の 58.4%)

27. よく見るインターネットニュースの記事は？（＊）

ー 1 位「スポーツ・芸能に関する記事」(71%)、

2 位「社会に関する記事」(57%) ー

- ・よく見るインターネットニュースの記事としては、「スポーツ・芸能に関する記事」(70.8%) をあげる人が約7割と最も多く、次いで、「社会に関する記事」(57.1%) をあげる人が半数を超えている。
- ・性別に見ると、「政治に関する記事」「経済に関する記事」は男性の方が多く、「スポーツ・芸能に関する記事」「生活・健康に関する記事」は女性の方が多くなっている。
- ・年代別に見ると、「スポーツ・芸能に関する記事」は30代以下で8割前後(77.2～85.5%)と多くなっている。
- ・昨年度調査と比較すると、「社会に関する記事」「国際情勢に関する記事」「文化に関する記事」が4～5ポイント増加した。

図 27-1 インターネットニュースでよく読む記事 (複数回答、n=1,988)

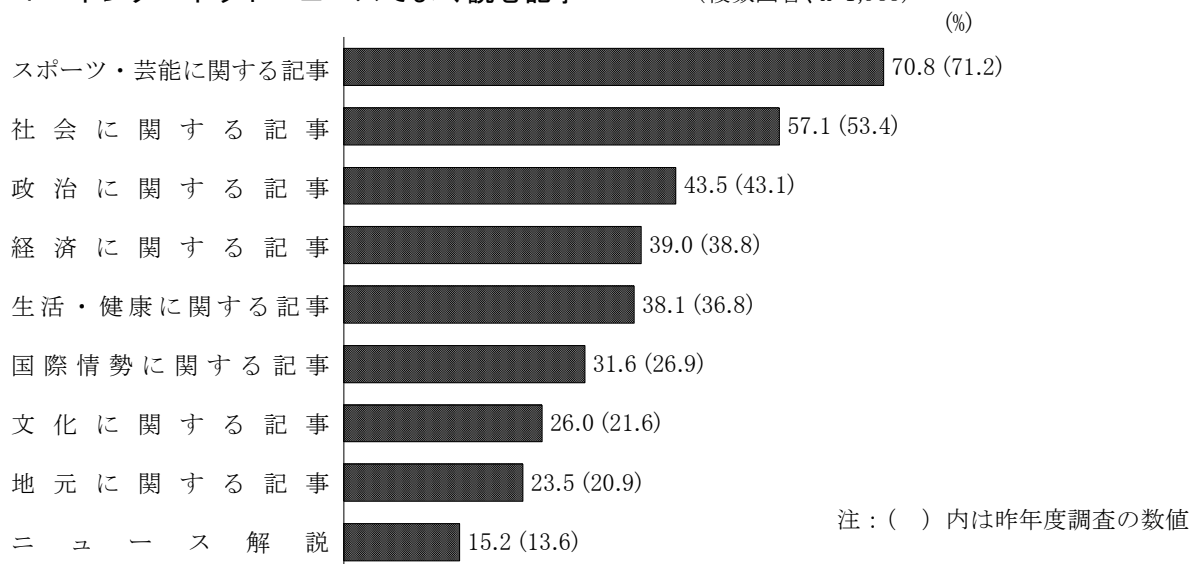
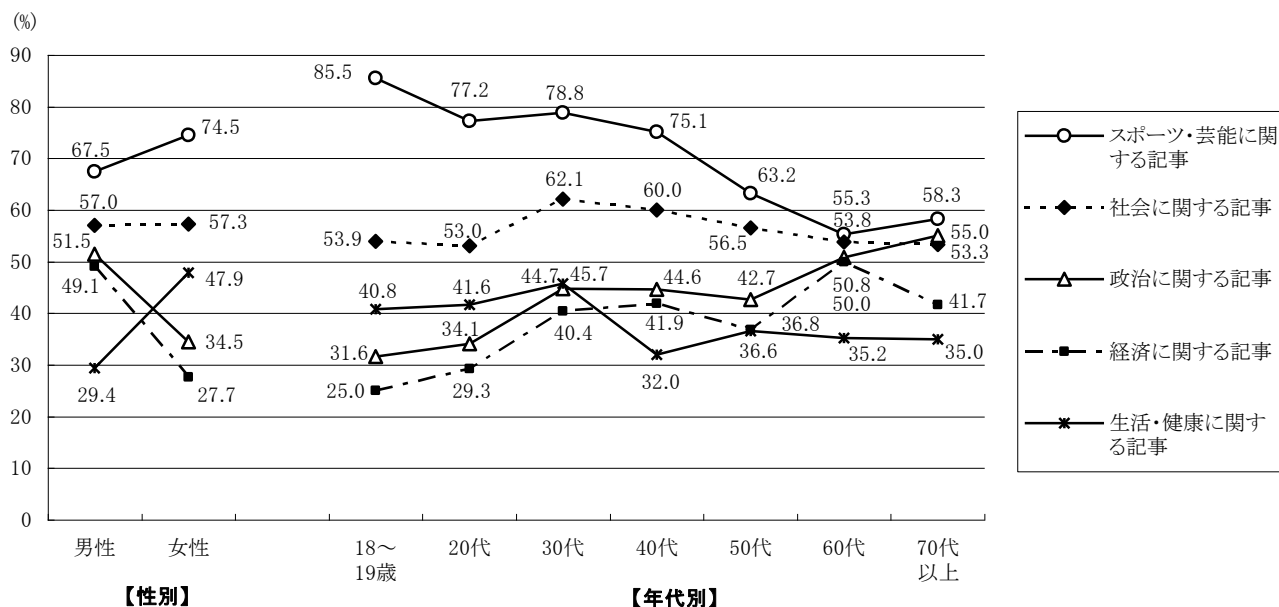


図 27-2 インターネットニュースでよく読む記事（性・年代別） (複数回答、n=1,988)



(インターネットニュースを見ている人に) (全体の 58.4%)

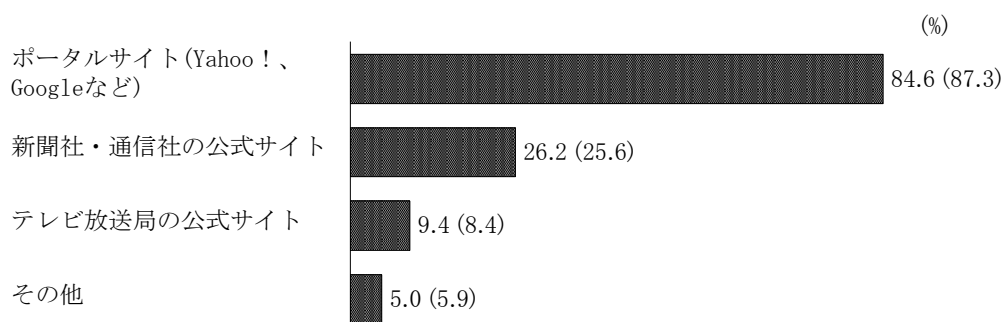
28. インターネットニュースを見るサイトは？（＊）

－ ポータルサイトが 85%、新聞社の公式サイトは 26%。 －

- ・インターネットニュースを見るサイトを質問したところ、「ポータルサイト(Yahoo!、Google など)」(84.6%) が突出して最も多かった。「新聞社・通信社の公式サイト」(26.2%)、「テレビ放送局の公式サイト」(9.4%) は大きく水をあけられているようだ。
- ・年代別に見ると、「ポータルサイト(Yahoo!、Google など)」はいずれの年代においても最も多く、40 代以下では 9 割前後 (85.5～91.2%)、50 代以上では年代の上昇と共に少なくなるが、70 代以上でも 6 割 (61.7%) を超える。一方、「新聞社・通信社の公式サイト」「テレビ放送局の公式サイト」は年代が上がるほど概ね多くなる傾向が見られる。
- ・過去の調査と比較すると、大きな変化は見られない。

図 28-1 インターネットニュースを見るサイト

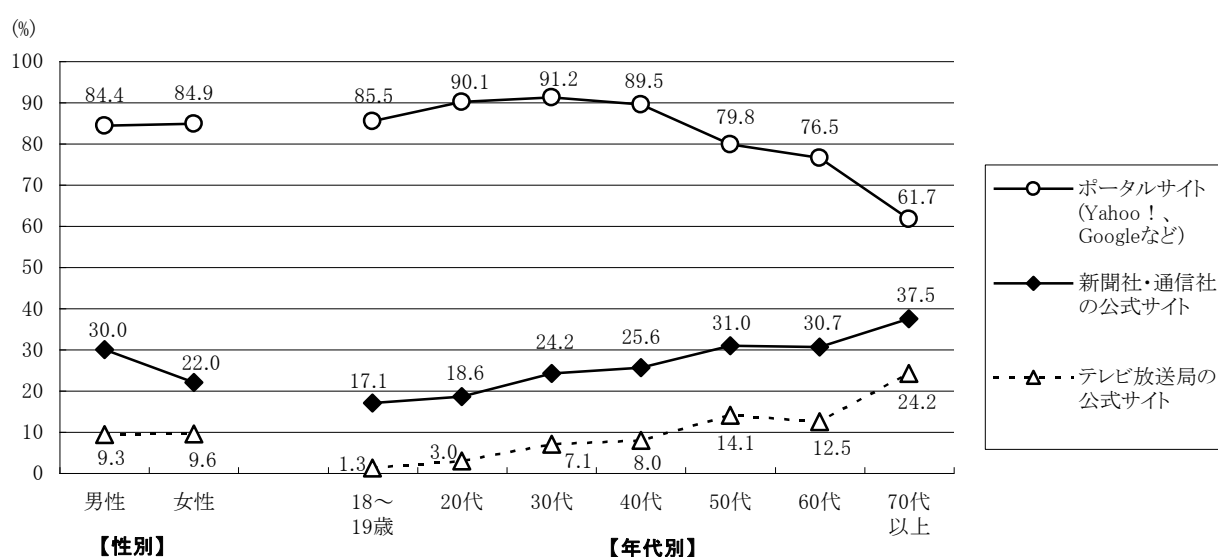
(n=1,988)



注：（ ）内は昨年度調査の数値

図 28-2 インターネットニュースを見るサイト（性・年代別）

(n=1,988)



29. 将来の新聞の役割についてどう思う？（＊）

－ 「新聞の役割が少なくなってくる」が若い世代では優勢。 －

新聞の役割減少派 37%、持続派 45%

- ・将来の新聞について、「A：インターネットなどの普及により新聞の役割が少なくなってくる」と考える役割減少派は 37.4%、「B：今までどおり、新聞が報道に果たす役割は大きい」と考える役割持続派は 45.2%と、役割持続派の方が多くなっている。
- ・年代別に見ると、役割持続派は 20 代（23.3%）で最も少なく、30 代以降、年代が上がるほど多くなり、60 代以上では 6 割前後（57.3%、60.8%）を占める。一方、30 代以下では役割減少派が過半数（52.4～61.6%）と多く、持続派（23.3～28.0%）を上回っており、若い世代で将来、新聞がインターネットなどの影響を受けると見ている人が多いことが分かる。
- ・昨年度調査と比較すると、全体ではほとんど変化がないが、年代別に見ると、役割減少派は 20～40 代で 4～5 ポイント増加している。

※役割減少派：「Aに近い」＋「どちらかといえばAに近い」
役割持続派：「どちらかといえばBに近い」＋「Bに近い」

図 29-1 将来の新聞についての意見

(n=3,404)

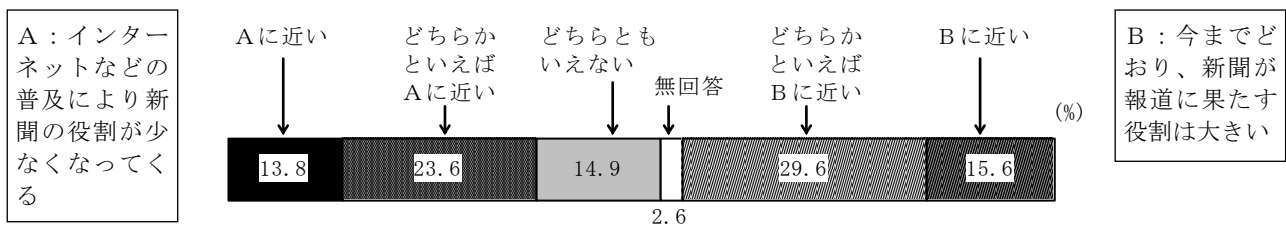
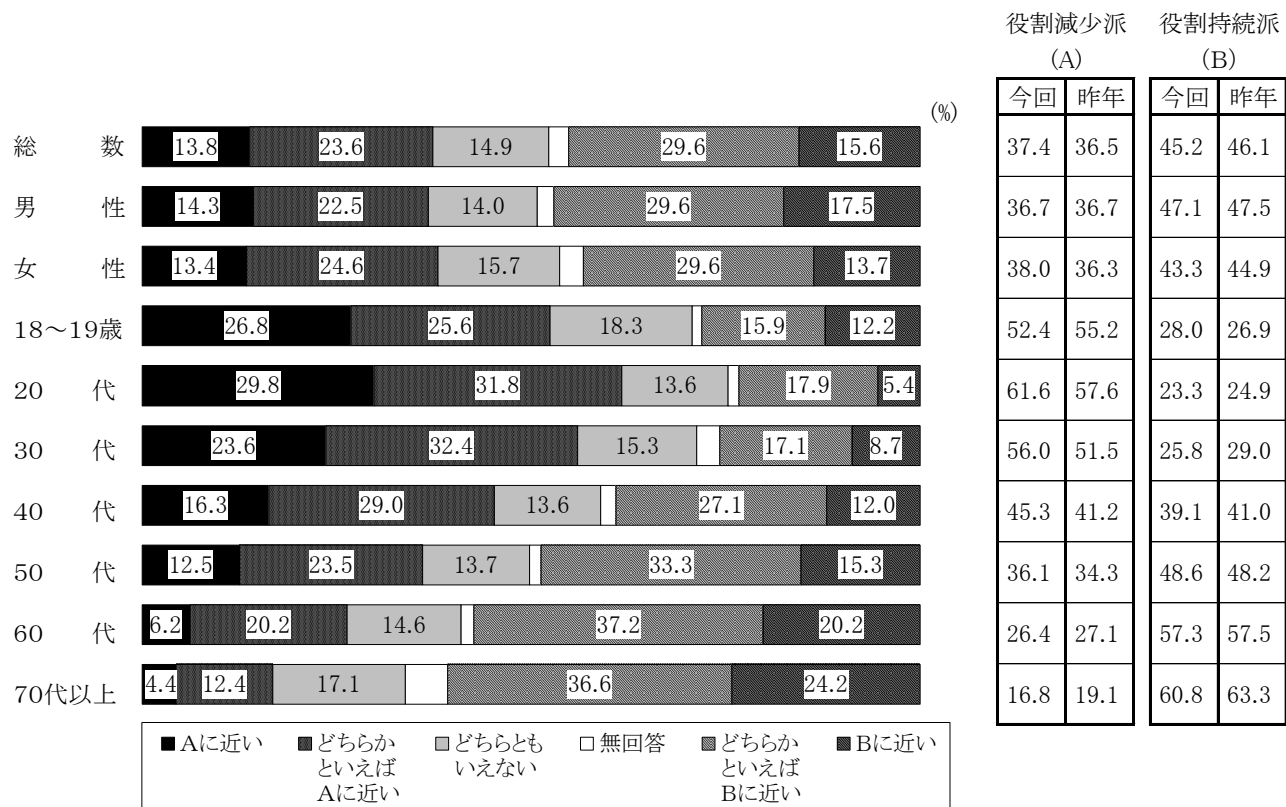


図 29-2 将来の新聞についての意見（性・年代別）

(n=3,404)

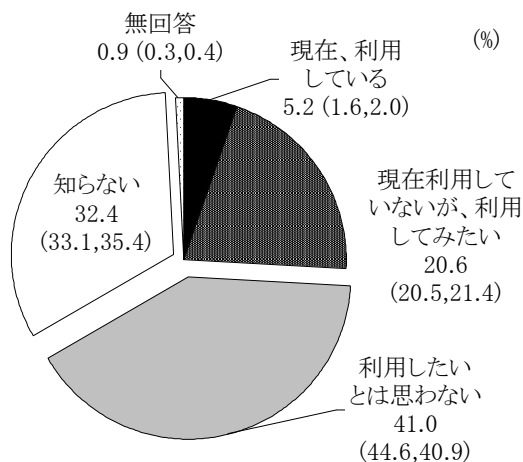


30. 電子新聞の利用意向は？（＊）

－「利用している」5%に増加、20代の10人に1人が利用。－

- ・電子新聞について、「現在、利用している」が5.2%、「現在利用していないが、利用してみたい」が20.6%となっており、4人に1人は利用意向がある。「知らない」は32.4%であった。「現在、利用している」は、2010年度2.0%、2011年度1.6%であったが、今回調査で5.2%に上昇した。
- ・電子新聞の購読料としては「1,000円未満」が24.5%で最も多く、次いで「1,000円～2,000円未満」が7.2%となっている。
- ・電子新聞の利用を年代別に見ると、年代が低いほど利用している人の割合が高くなり、20代では10人に1人が利用していると回答した。また、「現在利用していないが、利用してみたい」は50代以下で3割前後（24.9～30.5%）となっている。今後の電子新聞の利用動向に注目したい。

図 30-1 電子新聞の認知度と利用意向 (n=3,404)



注：（ ）内は左から 2011 年度調査、
2010 年度調査の数値

図 30-2 電子新聞の許容購読料 (n=3,404)

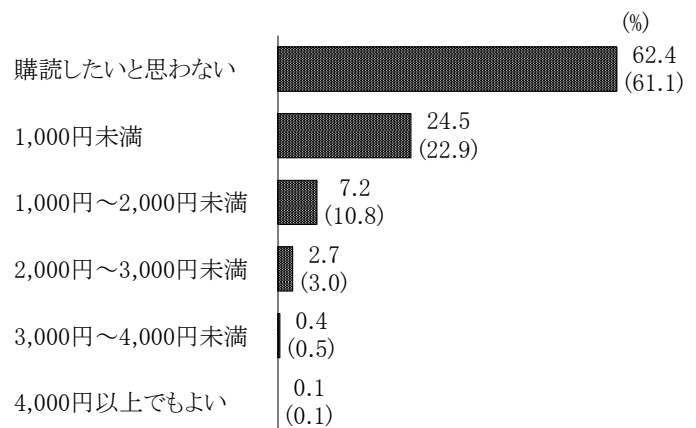
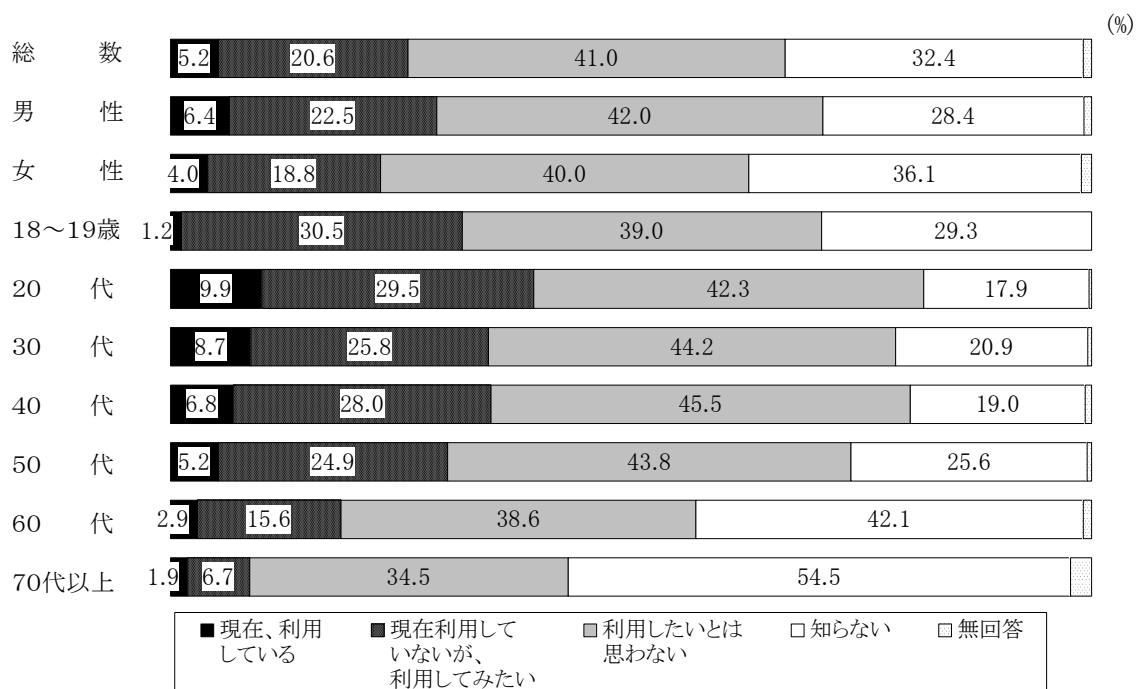


図 30-3 電子新聞の認知度と利用意向（性・年代別）

(n=3,404)



調査の概要

●調査地域

全国

●調査対象

18歳以上男女個人（5,000人）

●サンプリング法

住民基本台帳からの層化二段無作為抽出法

●回収サンプルの構成

回収数 3,404（68.1%）

●調査方法

専門調査員による訪問留置法

●実査時期

2012年9月

●調査委託機関

社団法人 中央調査社

<性別>

総数	男性	女性
3,404	1,647	1,757
100.0%	48.4%	51.6%

<年代別>

18～ 19歳	20代	30代	40代	50代	60代	70代 以上
82	352	450	558	582	694	686
2.4%	10.3%	13.2%	16.4%	17.1%	20.4%	20.2%

第5回 メディアに関する全国世論調査（2012年）

2012年11月発行

発行 公益財団法人 新聞通信調査会

東京都港区虎ノ門1丁目5番16号

電話 03-3593-1081